

令和 7 年度 全国学力・学習状況調査

～石狩市における結果の概要～

石狩市教育委員会

令和7年度 全国学力・学習状況調査における石狩市の結果について

I

調査概要

● 目的

- (1) 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

● 実施日

令和7年4月17日（木）

中学校理科のみ CBT 調査（コンピュータを使用した調査）のため、4月14日～17日

● 対象学年・人数

小学校、義務教育学校前期課程の第6学年～10校 429名で実施

中学校、義務教育学校後期課程の第3学年～7校 435名で実施

● 内容

小学校、義務教育学校前期課程・・・国語 算数 理科 児童質問調査

中学校、義務教育学校後期課程・・・国語 数学 理科 生徒質問調査

小・中学校、義務教育学校・・・学校質問調査

※中学校理科は、IRTによる経年比較を行うために問題の一部を非公開とし、公開問題と非公開問題を組み合わせた出題方法を採用

II

本市の結果概要

● 教科の結果

	小学校		中学校	
	全国平均正答率	全国平均と比較	全国平均正答率	全国平均と比較
国語	66.8%	ほぼ同様（下位）	54.3%	やや低い
算数 数学	58.0%	やや低い	48.3%	相当低い
理科	57.1%	同様	503	低い

石狩市における評語（正答率と比較）※中学校理科は500を基準とするIRTスコア

相当高い	7%以上	相当低い	－7%以下
高い	5%以上7%未満	低い	－5%以下－7%未満
やや高い	3%以上5%未満	やや低い	－3%以下－5%未満
ほぼ同様（上位）	1%以上3%未満	ほぼ同様（下位）	－1%以下－3%未満
同様	±1%未満		

● 児童・生徒質問紙の結果

【自分自身について】【人との関わりについて】【学習について】【家庭生活について】

☆ 改善傾向

- (1) 自己有用感・規範意識等に関わる項目のうち「人が困っているとき、進んで助ける」では、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と回答した割合は、小学生は全国平均を上回り、昨年と比べて増加傾向にあります。
- (2) 幸福感に関わる項目において「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」では、「よくある・ときどきある」と回答した割合は、中学生は全国平均を若干上回りであり、昨年と比べて増加傾向にあります。
- (3) ICT 機器を活用した学習状況項目のうち「前学年までに受けた授業で、PC・タブレットなど ICT 機器を、どの程度使用しましたか」では、「ほぼ毎日複数の授業・ほぼ毎日 1 回くらいの授業」と回答した割合は、小学生、中学生ともに全国平均を上回り、昨年と比べて増加傾向にあります。

★ 課題傾向

- (1) 自己有用感・規範意識等に関わる項目のうち「学校に行くのが楽しいと思う」では、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と回答した割合は、小中学生ともに全国平均を下回り、昨年と比べて小学生は減少傾向にあります。
- (2) 学習への興味・関心等に関わる項目のうち、「算数・数学の勉強が好きだ」「算数・数学の内容がよく分かる」では、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と回答した割合は、小学生、中学生ともに全国平均を下回り、昨年と比べて小学生が減少傾向にあります。
- (3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況に関わる項目のうち、「前年度までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができたか」、「学習について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができたか」では、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と回答した割合は、小学生は全国平均を上回りましたが、中学生は全国平均を下回っています。
- (4) 基本的な生活習慣等に関わる項目のうち、「朝食を毎日食べている」では、「している」と回答した割合は、小学生、中学生ともに全国平均を大きく下回っています。

● 学校質問紙の結果

多くの項目で小学校・中学校ともに肯定的な回答であり、全国・全道平均を上回る結果でした。ただ、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況における回答は、児童生徒の回答と隔たりが見られます。教員と児童生徒の捉え方の差を埋めるように、個別最適な学び・協働的な学びへの授業改善が一層必要であるといえます。また、全国学力・学習状況調査結果を積極的に活用して、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善していると回答する学校の割合が多い結果でした。

Ⅲ

成果と課題

● 成果

- (1) 小学校の国語は、正答率が全国平均にわずかに届かなかったものの、「書くこと」領域において全国平均を上回り、授業改善の取組の成果が見られます。一方、中学校の国語は、全国平均との差があるものの昨年度より若干上昇しました。全国と比べ伸びしろ層が多く、定着層が少ない結果でした。
- (2) 小学校の算数は、正答率が全国平均よりやや低いですが、昨年度より若干上昇しました。「数と計算」「変化と関係」「データの活用」の3領域で昨年度を上回りました。記述式問題の無解答率は、全国平均を下回りました。
- (3) 小学校の理科は、正答率が全国平均と同様で、前回実施の令和4年度と比較すると大きく上昇しました。また、問題形式では「短答式」「記述式」の正答率が全国平均を上回りました。

● 課題

- (1) 小学校の国語は「読むこと」領域、中学校は「書くこと」領域に課題があります。それぞれ全国平均を下回り、昨年度よりも下降しています。
- (2) 小中学校とも、算数・数学の正答率が全国平均を下回っています。特に中学校は、相当低いという結果で、昨年度を下回りました。領域別では、小学校は「図形」「測定」、中学校は「関数」「データの活用」領域に課題があります。
- (3) 中学校の理科のIRTスコアは全国より低く、IRTバンドは「2」が多い結果です。

Ⅳ

今後の改善策

● 子どもの主体的な学びを重視した授業改善の推進

- (1) 育成を目指す資質・能力を明確にし、学びに向かう力を高める単元指導の工夫
 - 系統性を意識した単元計画の作成と指導の充実を図る。
 - 授業のねらいを具体化した学習活動を位置付ける。
 - 児童生徒との単元計画の共有や振り返りを重視した授業づくりを推進する。
- (2) ICT機器を有効活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
 - 1人1台端末やAIドリルなどの活用による個々に応じた学習活動を工夫する。
 - 学習の手立てや学習形態の複線型を取り入れた授業の工夫を図る。
- (3) 対話による価値交換で学びの質を高める学習活動の工夫
 - 授業のねらいに沿った話し合い場面を設定する。
 - 児童生徒にアウトプットさせる場面を意識した学習展開を工夫する。
- (4) 学び合う人間関係づくり・学習集団づくりの推進
 - こどもの権利をベースにした学級・集団づくりを推進する。
- (5) 教職員が小中の教育課程の接続を意識し、授業を学び合う取組の活性化
 - 小中連携地区での授業を参観し合う取組を確実に推進する。

● 学校改善プランの組織的・計画的な推進

- (1) 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、これまでの取組の成果・課題を明確にした学校改善プランの見直し
- (2) 学校全体で目標と具体的な取組の共有
- (3) 学校改善プランに基づく取組の進行管理
 - 取組の進捗状況を点検・評価し、職員全体で共有する。
 - 具体的な取組について短期・中期で検証・改善を行い、実効性を高める。

● 家庭・地域と一体となった取組の推進

- (1) 保護者や地域住民への調査結果や改善方策等の提示
 - 学校だよりやPTA・CSの会議等で、具体的にわかりやすく説明する。
- (2) 生活・学習習慣の改善に向けた児童生徒が自らの生活・学びを調整する力の育成
 - 家庭学習の充実 → 授業と連動した家庭学習の工夫、AIドリルの活用など
 - 生活習慣の改善 → 生活リズムチェックシートの活用、スマホ依存改善プログラムの推進など

【用語説明】

IRT	項目反応理論。児童生徒の正答・誤答が、問題の特性によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。異なる問題から構成される試験・調査の結果を同じものさしで比較できる。
IRTスコア	IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。各教科にCBT・IRTを導入する年の全国平均500を基準値とし、経年比較が可能な形で算出。
IRTバンド	IRTスコアを1～5の5段階に区切ったもので、平均バンドは3で、5が最も高いバンドとなる。各教科にCBT・IRTを導入する年の全国平均3を基準値とし、経年比較が可能な形で算出。
パーセンタイル	データ全体を小さい順に並べたときに、ある値が下から数えて何%の位置に相当するかを表す数値。小さい値から数えて、総数の1/4番目に当たる値が第一四分位（25パーセンタイル）、真ん中に当たる値が第二四分位（中央値、50パーセンタイル）、3/4番目に当たる値が第三四分位（75パーセンタイル）となる。

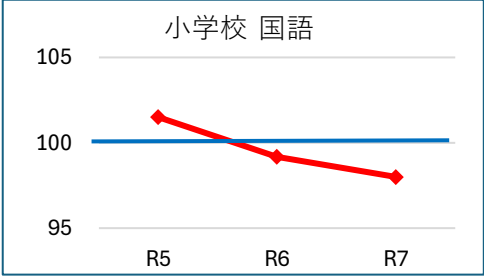
令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果分析（小学校）について

【国 語】

● 平均正答率

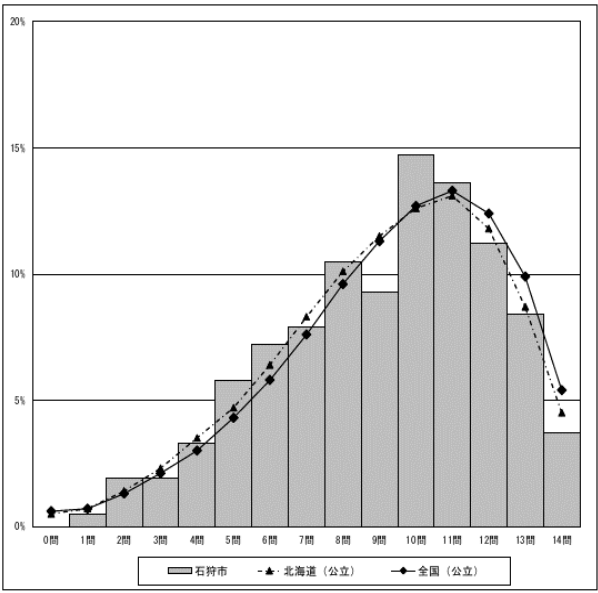
	平均正答数	平均正答率	石狩市（全国、全道との比較）
全国	9.4/14問	66.8%	ほぼ同様下位 （－1％以下～－3％未満）
全道	9.2/14問	65.4%	同様 （±1％未満）

● 経年変化

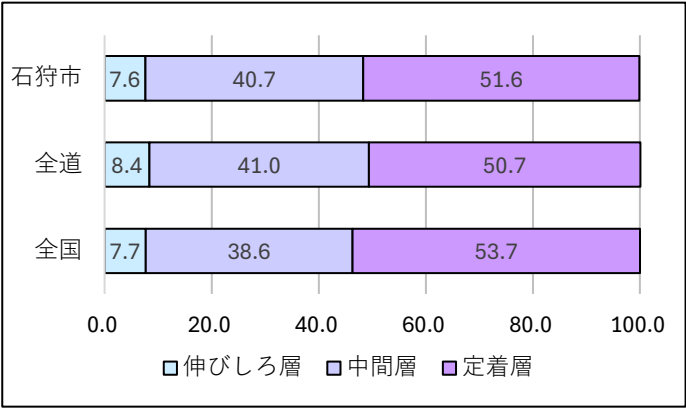


※全国平均を100とする

● 正答数分布

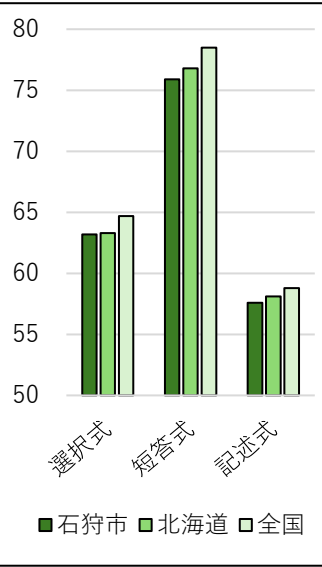
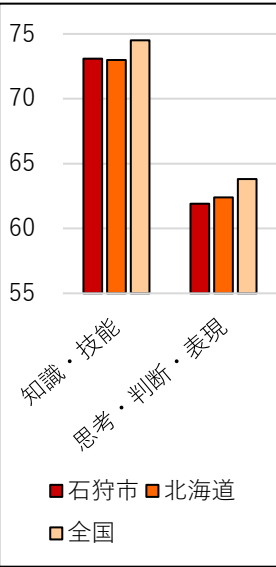
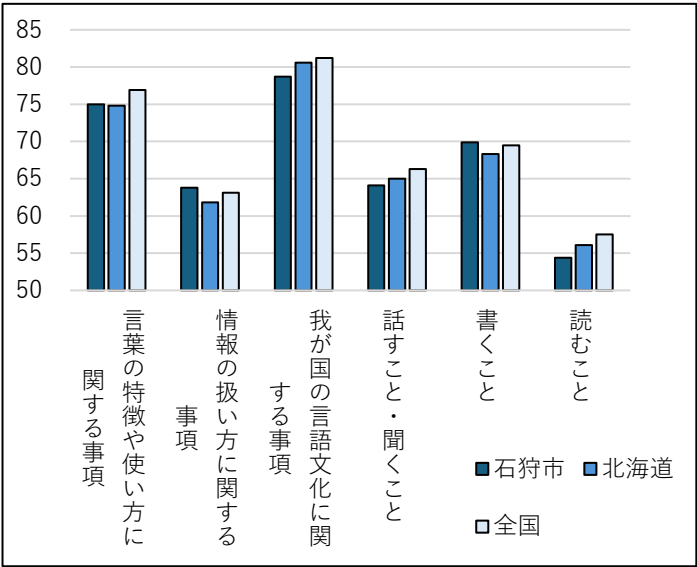


● 三層割合

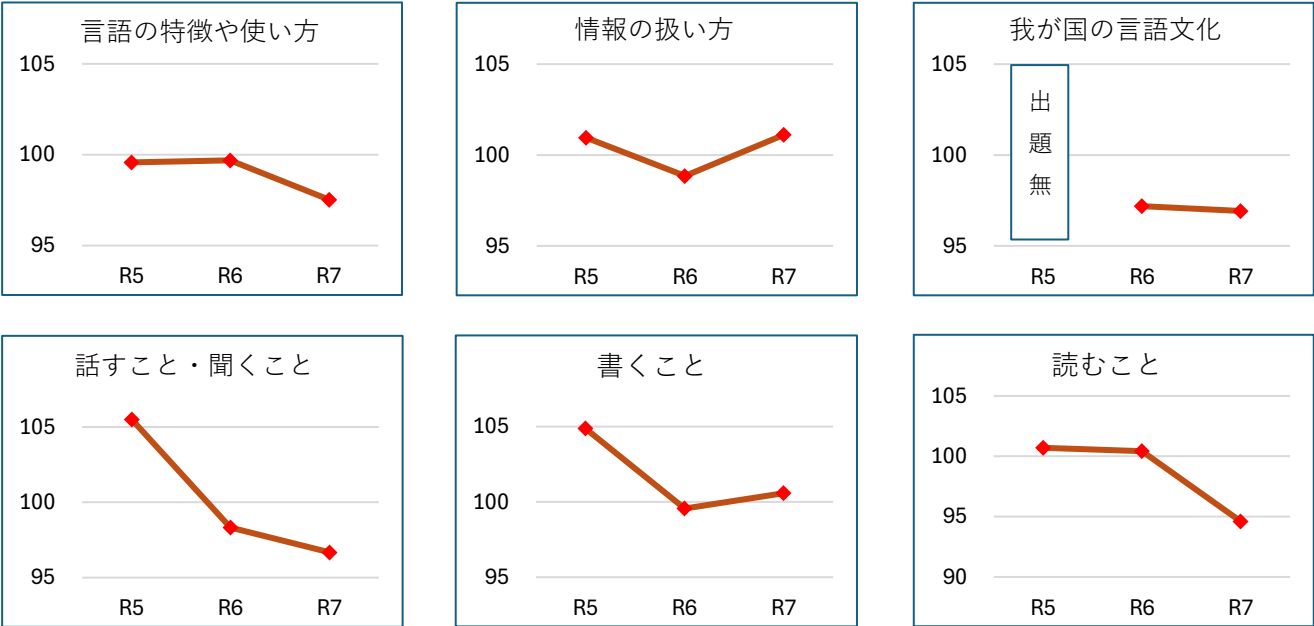


伸びしろ層：正答数0～4問
中間層：5～9問
定着層：10～14問

● 領域等、評価の観点、問題形式の平均正答率



● 領域等の経年変化 ※全国平均を100とする



● 結果の概要

- ◇国語の正答率は、全国と比較するとほぼ同様（下位）で、全道と同様の結果でした。
令和6年度と比較すると、若干低下しました。
- ◇領域別「知識及び技能」についての結果です。
「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、全国とほぼ同様（下位）、全道と同様
「情報の扱い方に関する事項」は、全国と同様、全道とほぼ同様（上位）
「我が国の言語文化に関する事項」は、全国、全道ともにほぼ同様（下位）
- ◇領域別「思考力、判断力、表現力等」についての結果です。
「話すこと・聞くこと」は全国とほぼ同様（下位）、全道と同様
「書くこと」は、全国と同様、全道とほぼ同様（上位）
「読むこと」は、全国よりやや低く、全道とほぼ同様（下位）
- ◇問題形式別の正答率では、「選択式」「短答式」「記述式」ともには全国とほぼ同様（下位）、全道と同様となりました。

● 調査問題の内容

学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題されています。なお、小学校第5学年までの内容となっています。

（例）

- 【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する。
- 【ちらし】の文章の構成の工夫を説明したものとして適切なものを選択する。
- 【ちらし】の中の一文中、【調べたこと】を基に詳しく書く。
- 言葉の変化について、自分が納得したこととその理由をまとめて書く。
- 設問数は14問です。

● 成果の見られる問題例

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	平均正答率%		
				石狩市	北海道	全国
2 四ア	【ちらし】の下線部アを、漢字を使って書き直す	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	言葉の特徴や使い方に関する事項	84.8	81.6	81.6
2 二	山田さんが手ぬぐいの模様について言葉と図で説明した理由として適切なものを選択する	図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	書くこと	80.4	80.2	81.8
1 三 (2)	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部イのように発言した理由として適切なものを選択する	話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	話すこと・聞くこと	75.0	72.6	73.7

● 全国平均と差がある問題例

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	平均正答率%		
				石狩市	全国	全国との差
1 一	【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる	話すこと・聞くこと	47.4	53.3	-5.9
2 四イ	【ちらし】の下線部イを、漢字を使って書き直す (あつい日)	【ちらし】の下線部イを、漢字を使って書き直す (あつい日)	言葉の特徴や使い方に関する事項	65.2	72.1	-6.9
3 二 (2)	【資料3】を読み、【木村さんのメモ】の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選択する	事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる	読むこと	47.0	51.3	-4.3

● 指導の改善

【問題番号 1 一 話すこと・聞くこと】

- 伝え合う内容を検討する際、聞くことにおいては、目的や意図に応じて、聞くことを具体的に考え、関係する材料を整理しておくことが重要です。
- ・指導に当たっては、知りたいことについて、自分が知っていることや予想したこと、疑問に感じていることなどを聞く目的や意図に応じて内容ごとにまとめたり、それらを互いに結び付けて関係を明確にしたりすることが大切です。また、知りたいことを聞くという目的に加えて、相手の答えを予想したり、予想した答えと関連して聞きたいことを考えたりするなど、聞くときの場面や状況を意識することも大切です。

【問題番号 2 四イ 言葉の特徴や使い方に関する事項】

- 漢字を書くことについては、当該学年の前の学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにするとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うようにすることが重要です。
- ・指導に当たっては、書く目的や意図に応じて自分の思いや考えを伝えるためにも適切に漢字を使い分ける力が身に付くようにすることが大切です。特に今後は、端末を使って文章を書く機会が増えることも予想されます。そのため、同音異義語から文章に合う漢字を選ぶ力を付けていくことも大切です。

【問題番号 3 二（2） 読むこと】

- 要旨とは、書き手が文章で取り上げている内容の中心となる事柄や、書き手の考えの中心となる事柄などです。要旨を把握するためには、文章の各部分だけを取り上げるのではなく、文章全体の構成を捉えることが重要です。
- ・指導に当たっては、書き手がどのような事実を理由や事例として挙げているかを書き出し、書き手の考えを自分の言葉で短くまとめるなどして、内容の中心となる事柄などを捉えることができるよう指導することが必要です。

● 国語に関する意識調査（児童質問調査項目44～51、国1より）

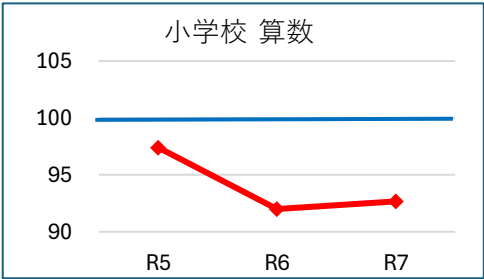
質問内容		肯定的な回答%		全国との差%
		石狩市	全国	
44	国語の勉強は得意ですか	64.2	61.4	2.8
45	国語の勉強は好きですか	66.0	58.3	7.7
46	国語の授業内容はよく分かりますか	83.1	82.8	0.3
47	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	89.7	90.4	-0.7
48	国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか	82.2	78.2	4.0
49	国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれますか	81.7	75.5	6.2
50	国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていますか	83.6	81.8	1.8
51	国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けていますか	82.0	79.1	2.9
国1	「今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」について、「最後まで努力した」と回答	85.1	81.7	3.4
	2問あった記述式問題の無解答率の平均	7.9	10.6	-2.7

【算数】

● 平均正答率

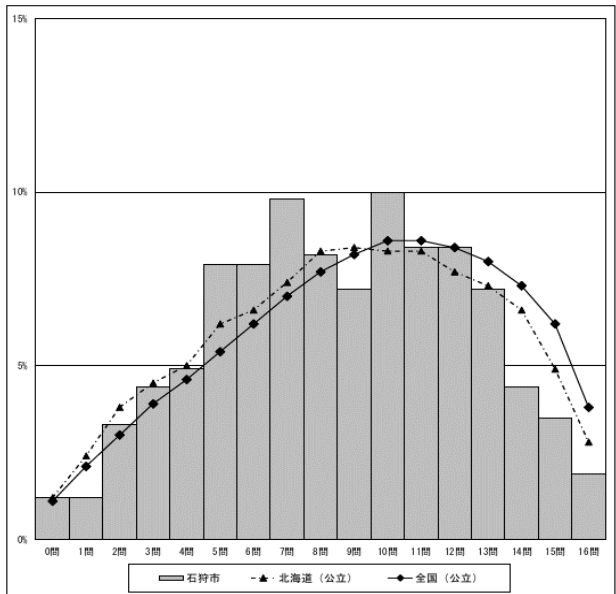
	平均正答数	平均正答率	石狩市（全国、全道との比較）
全国	9.3/16問	58.0%	やや低い （－3％以下～－5％未満）
全道	8.8/16問	55.2%	ほぼ同様下位 （－1％以下～－3％未満）

● 経年変化

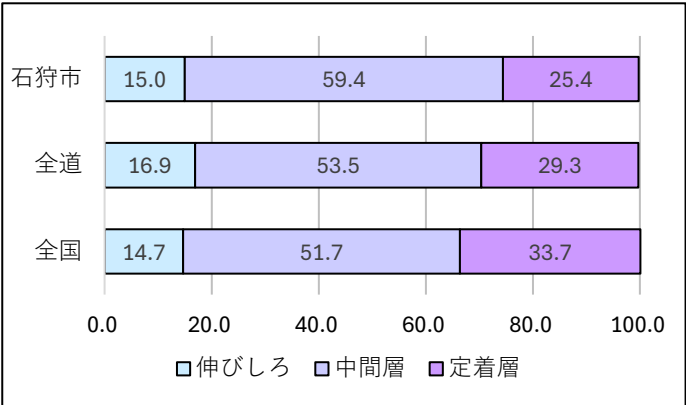


※全国平均を100とする

● 正答数分布



● 三層割合

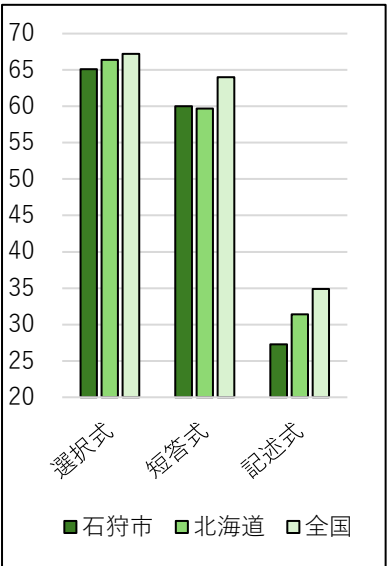
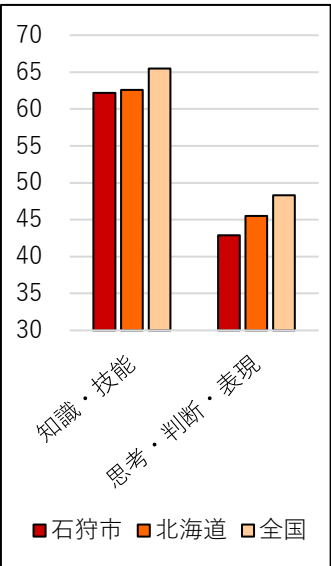
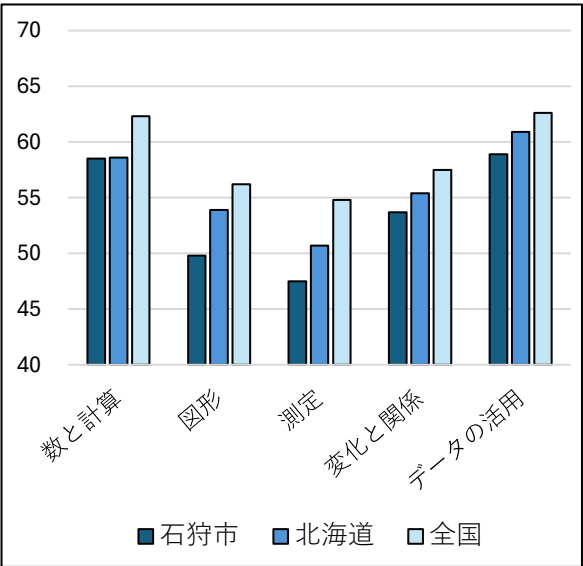


伸びしろ層：正答数0～4問

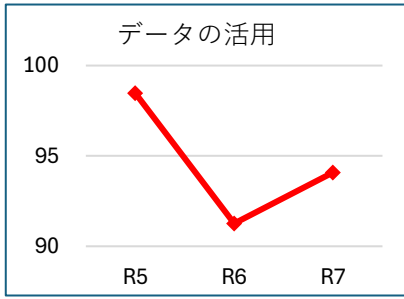
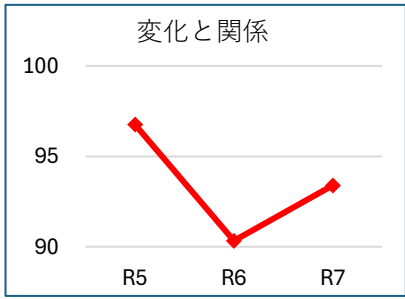
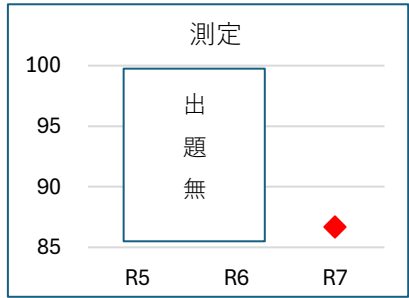
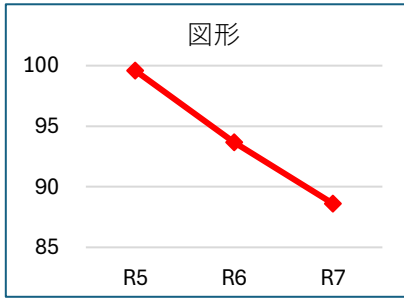
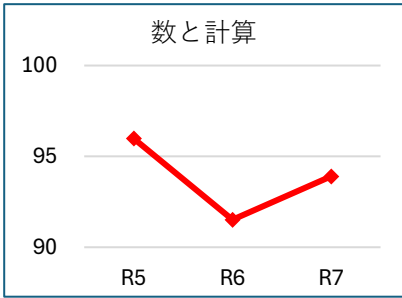
中間層：5～11問

定着層：12～16問

● 領域等、評価の観点、問題形式の平均正答率



● 領域等の経年変化 ※全国平均を100とする



● 結果の概要

◇算数の平均正答率は、全国よりやや低く、全道とほぼ同様（下位）の結果でした。令和6年度との比較では、全国との差が若干縮みました。

◇領域別では、「数と計算」は全国よりやや低い、全道と同様、「図形」は全国より低い、全道よりやや低い、「測定」は全国より相当低く、全道よりやや低い、「変化と関係」と「データの活用」は全国よりやや低く、全道とほぼ同様（下位）という結果でした。

◇問題形式の正答率では、「選択式」は全国、全道ともにほぼ同様（下位）、「短答式」は全国よりやや低い、全道と同様、「記述式」は全国より相当低い、全道よりやや低いという結果でした。

● 調査問題の内容

学習指導要領における「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題しています。なお、小学校第5学年までの内容となっています。

（例）

- $0.4 + 0.05$ について、整数の加法で考えるときの共通する単位を書く。
- 方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ。
- 10%増量した詰め替え用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ。
- 都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く。
- 設問数は16問です。

● 成果の見られる問題例

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	平均正答率%		
				石狩市	北海道	全国
1 (1)	2022年の全国のブロッコリーの出荷量が2002年の全国のブロッコリーの出荷量の約何倍かを、棒グラフから読み取って選ぶ	棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる	数と計算	83.6	77.1	78.7
2 (3)	角をつくる二つの辺をそれぞれのばした図形の角の大きさについてわかることを選ぶ	角の大きさについて理解しているかどうかをみる	図形	79.0	76.8	79.3
3 (4)	$1 \div 2 + 1 \div 3$ を計算する	異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる	数と計算	79.4	73.0	81.3

● 全国平均と差がある問題例

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	平均正答率%		
				石狩市	全国	全国との差
2 (2)	方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる	図形	38.1	50.2	-12.1
2 (4)	五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く	基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	図形	27.6	37.0	-9.4
4 (2)	使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を書く	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	数と計算 測定 変化と関係 データの活用	38.8	48.7	-9.9

● 指導の改善

【問題番号 2（2）図形】

- 図形の置き方をいろいろと変えても、図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目して、図形を弁別できるようにすることが重要です。
- ・指導に当たっては、例えば、置き方をいろいろと変えて示された幾つかの四角形の中から台形を弁別し、その理由を説明する活動が考えられます。その際、図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目しながら、図形の性質を基に弁別した理由を説明することで、置き方をいろいろと変えても図形の性質は変わらないことを理解できるようにすることが大切です。

【問題番号 2（4）図形】

- 多角形の面積を求める際に、基本図形に分割するなど、面積の求め方を知っている既習の図形を見いだして、面積の求め方を考えることができるようにすることが重要です。
- ・指導に当たっては、例えば、本設問のように、方眼上の五角形の面積を求める活動が考えられます。その際、五角形を分割すれば面積を求められるのではないかとといった方法の見通しをもつことができるようにすることが大切です。図形を分割する際、幾つかの図形に分割してから面積を求めることができるかどうかを考える場合や、面積を求めることができるかどうかを考えながら基本図形に分割しようとする場合があると想定されます。どちらの場合でも、どのような図形に分割したのかを明らかにして、分割した図形の面積を求めるために必要な辺の長さなどを捉え、その図形の面積を求めることができるようにすることが大切です。その上で、五角形の面積の求め方を式や言葉を用いて表し、説明できるようにすることが大切です。

【問題番号 4（2）数と計算 測定 変化と関係 データの活用】

- 日常生活の問題を解決するために、複数の情報から場面に基づいて必要な数量を見だし、それらの数量の関係を捉えるとともに、その関係を式や言葉の式に表現できるようにすることが重要です。
- ・指導に当たっては、例えば、本設問のように、使いかけのハンドソープが空になるまでにあと何プッシュすることができるのかを知るために、液体の量の代わりに用いることができる数量を見いだす活動が考えられます。その際、使いかけのハンドソープを提示し、ラベルに書いてある新品の場合の液体の量についての情報が使えないことを確認するとともに、「液体の量が分からないとき、空になるまでにあと何プッシュすることができるのかを知るためには、何を調べればよいですか。」などと問いかけ、液体の量の代わりとして重さに着目することに気付くことができるようにすることが大切です。

● 算数に関する意識調査（児童質問調査項目52～59、算1より）

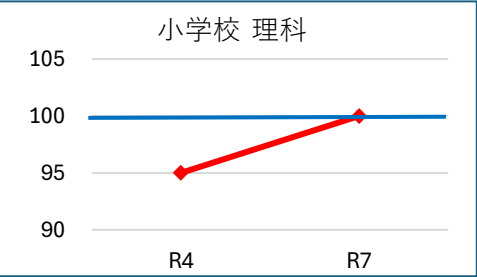
質問内容		肯定的な回答%		全国との差%
		石狩市	全国	
52	算数の勉強は得意ですか	53.5	60.3	-6.8
53	算数の勉強は好きですか	49.6	57.9	-8.3
54	算数の授業内容はよく分かりますか	74.8	78.3	-3.5
55	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	90.5	91.6	-1.1
56	算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか	80.8	83.3	-2.5
57	算数の問題の解き方が分からない時は、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	81.4	82.3	-0.9
58	算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか	72.2	65.5	6.7
59	小数や分数の計算をするとき、工夫して計算しようとしていますか	81.5	80.6	0.9
算1	「今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」について、「最後まで努力した」と回答	79.1	74.5	4.6
	4問あった記述式問題の無解答率の平均	4.6	5.7	-1.1

【理 科】

● 平均正答率

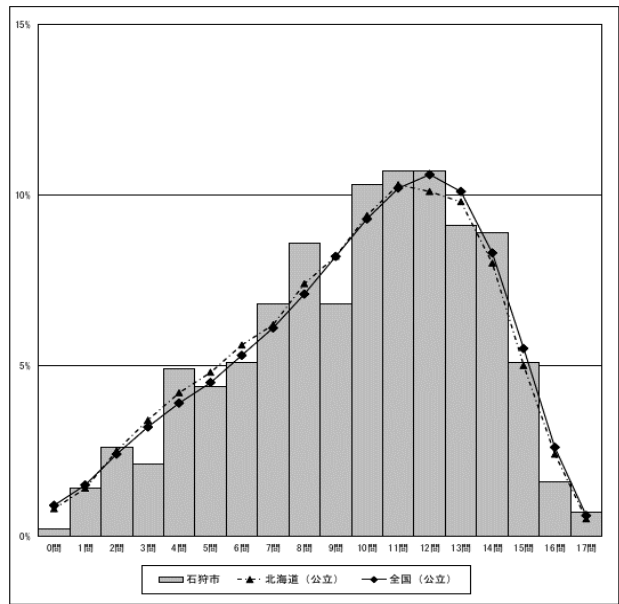
	平均正答数	平均正答率	石狩市（全国、全道との比較）
全国	9.7/17問	57.1%	同様 （± 1 %未満）
全道	9.6/17問	56.3%	同様 （± 1 %未満）

● 経年変化

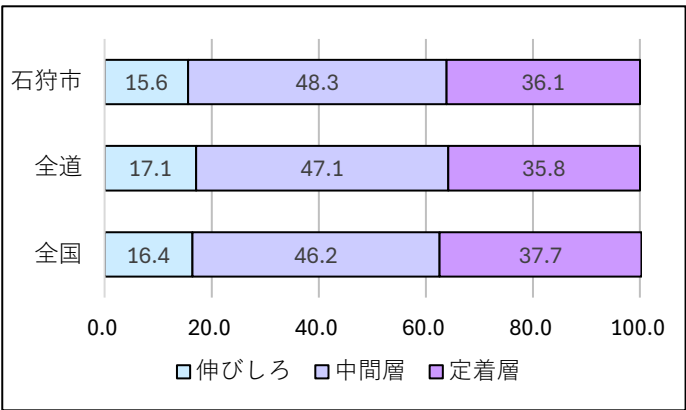


※全国平均を100とする

● 正答数分布

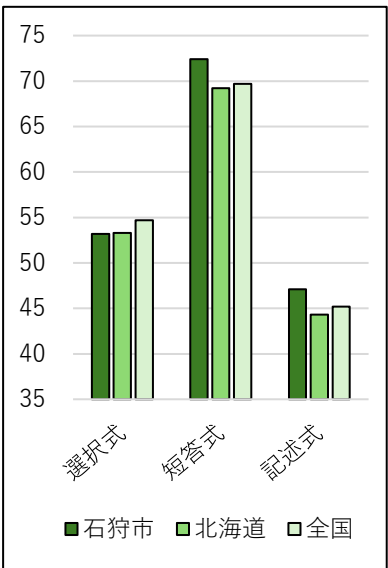
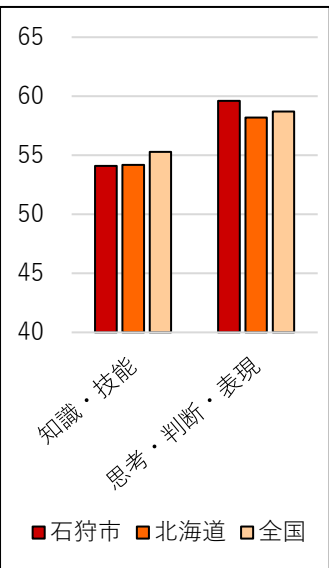
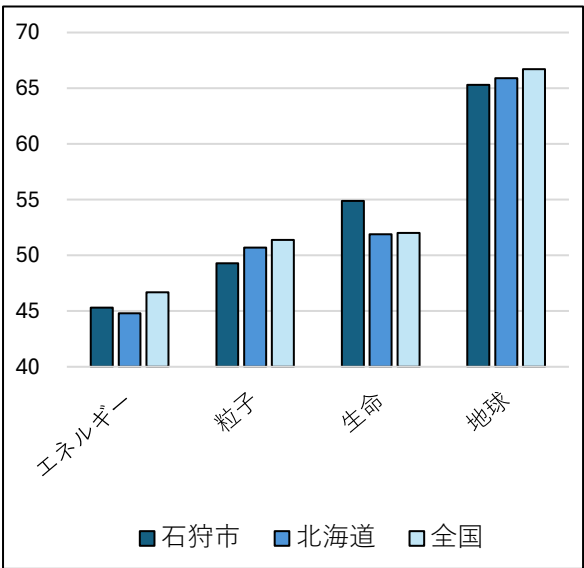


● 三層割合

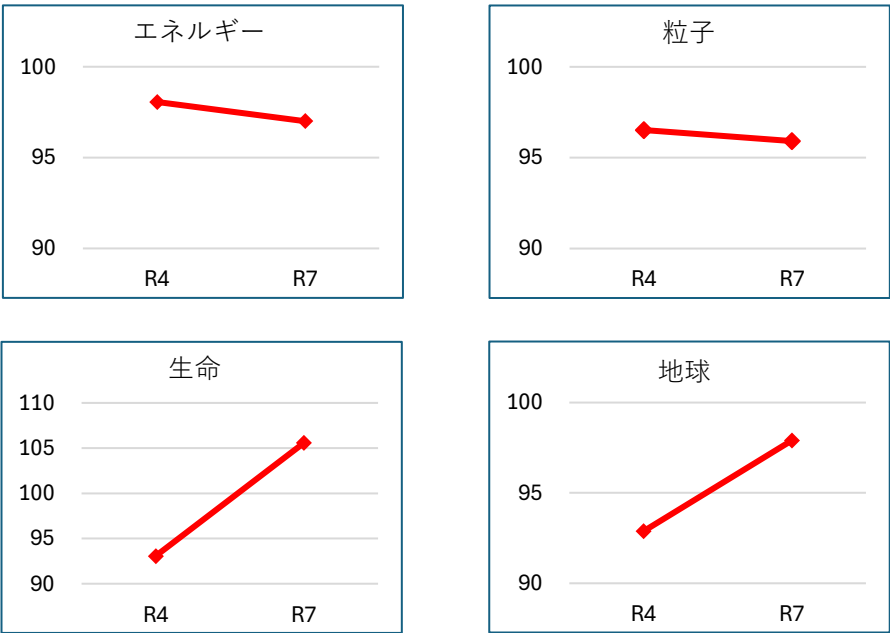


伸びしろ層：正答数 0～5 問
中間層：6～11 問
定着層：12～17 問

● 領域等、評価の観点、問題形式の平均正答率



● 領域等の経年変化 ※全国平均を100とする



● 結果の概要

◇理科の平均正答率は、全国、全道と同様の結果でした。令和4年度との比較では、大きく上昇し全国との差がなくなりました。

◇領域別では、「エネルギー」は全国とほぼ同様（下位）、全道と同様、「粒子」は全国、全道とほぼ同様（下位）、「生命」は全国とほぼ同様（上位）、全道よりやや高い、「地球」は、全国とほぼ同様（下位）、全道と同様という結果でした。

◇問題形式の正答率では、「選択式」で全国とほぼ同様（下位）、全道と同様、「短答式」は全国とほぼ同様（上位）、全道よりやや高い、「記述式」は全国、全道とほぼ同様という結果でした。

● 調査問題の内容

学習指導要領に示された目標及び内容に基づき、「A物質・エネルギー」、「B生命・地球」の二つの内容区分から、バランスよく出題しています。なお、小学校第5学年までの内容となるようにしています。

(例)

- 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いをまとめたわけについて、結果を基にして書く。
- 乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ。
- ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ。
- 水の温まり方について、問題を解決するために適切な方法を検討し、その方法を書く。
- 設問数は17問です。

● 成果の見られる問題例

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	平均正答率%		
				石狩市	北海道	全国
1 (1)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込む時間の違いを調べる実験の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの条件を書く	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる	地球	83.2	79.9	79.5
1 (3)	【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる	地球	75.5	76.5	77.8
2 (3)	ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く	電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる	エネルギー	76.7	75.8	78.0
3 (1)	ヘチマの花のおしべとめしべについて選び、受粉について書く	ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる	生命	73.4	68.5	70.7

● 全国平均と差がある問題例

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	平均正答率%		
				石狩市	全国	全国との差
4 (2) イウ	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる	粒子 地球	59.0	64.2	-5.2
4 (2) エオ	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる	粒子 地球	51.7	57.5	-5.8

● 指導の改善

【問題番号 4（2） イウ・エオ 粒子 地球】				
○習得した個別の知識を概念的に理解するためには、学習内容を他の学習や生活と関連付けることが大切です。				
・指導に当たっては、知識を関連付けてより深く理解するために、加熱をしなくても水が蒸発する場面を生活の中から探したり、低い温度で水が蒸発する場面と沸騰で蒸発する場面との差異点や共通点を整理したりすることを通して、水の状態変化について概念的に理解していくような指導が考えられます。				

● 理科に関する意識調査（児童質問調査項目60～70、理1より）

質問内容		肯定的な回答%		全国との差%
		石狩市	全国	
60	理科の勉強は得意ですか	83.8	78.4	5.4
61	理科の勉強は好きですか	80.6	80.1	0.5
62	理科の授業内容はよく分かりますか	88.3	88.9	-0.6
63	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	79.1	79.9	-0.8
64	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	28.0	30.0	-2.0
65	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できていますか	61.1	63.2	-2.1
66	自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか	67.0	68.9	-1.9
67	理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか	96.0	92.4	3.6
68	理科の授業では、問題に対して答えがどのようなになるのか、自分で予想（仮説）を考えていますか	90.0	85.7	4.3
69	理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか	91.3	88.4	2.9
70	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	82.2	76.0	6.2
理1	「今回の理科の問題では、解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」について、「最後まで努力した」と回答	87.6	81.8	5.8
	2問あった記述式問題の無解答率の平均	5.9	10.0	-4.1

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果分析（中学校）について

【国語】

● 平均正答率

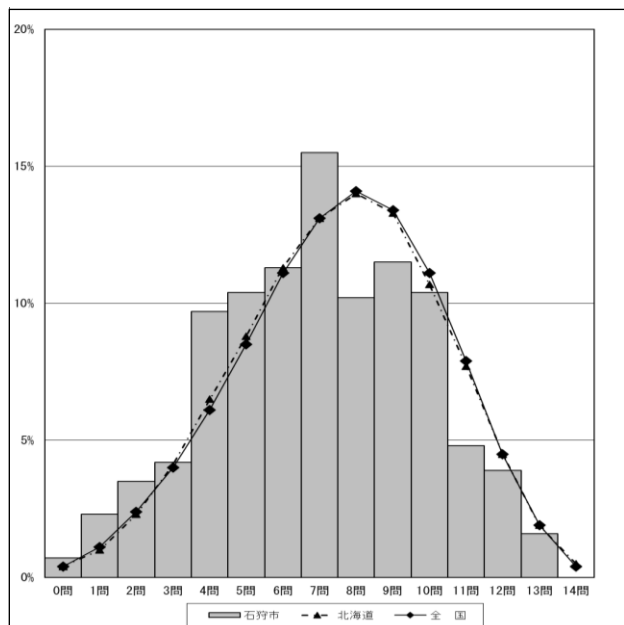
	平均正答数	平均正答率	石狩市（全国、全道との比較）
全国	7.6/14問	54.3%	やや低い （－3％以下～－5％未満）
全道	7.6/14問	54.0%	やや低い （－3％以下～－5％未満）

● 経年変化

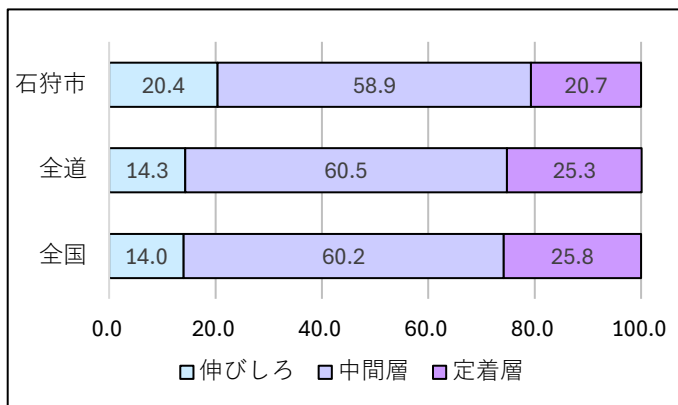


※全国平均を100とする

● 正答数分布



● 三層割合

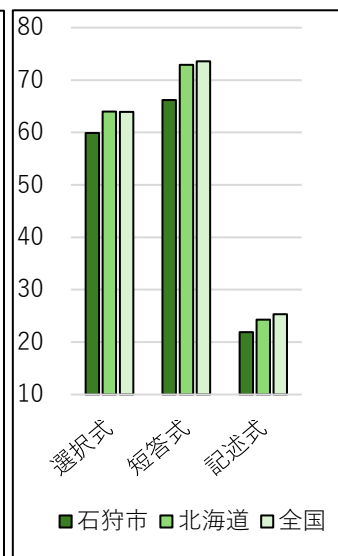
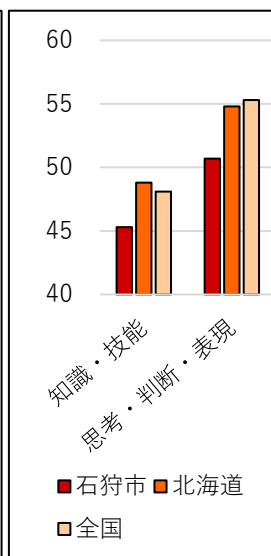
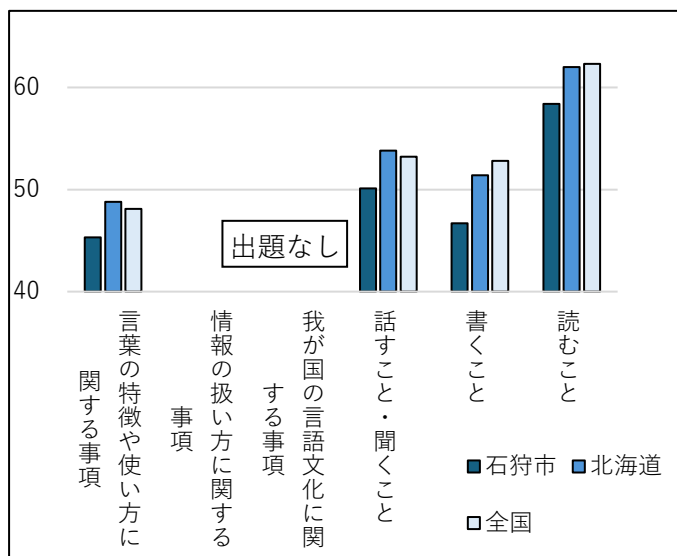


伸びしろ層：正答数0～4問

中間層：5～9問

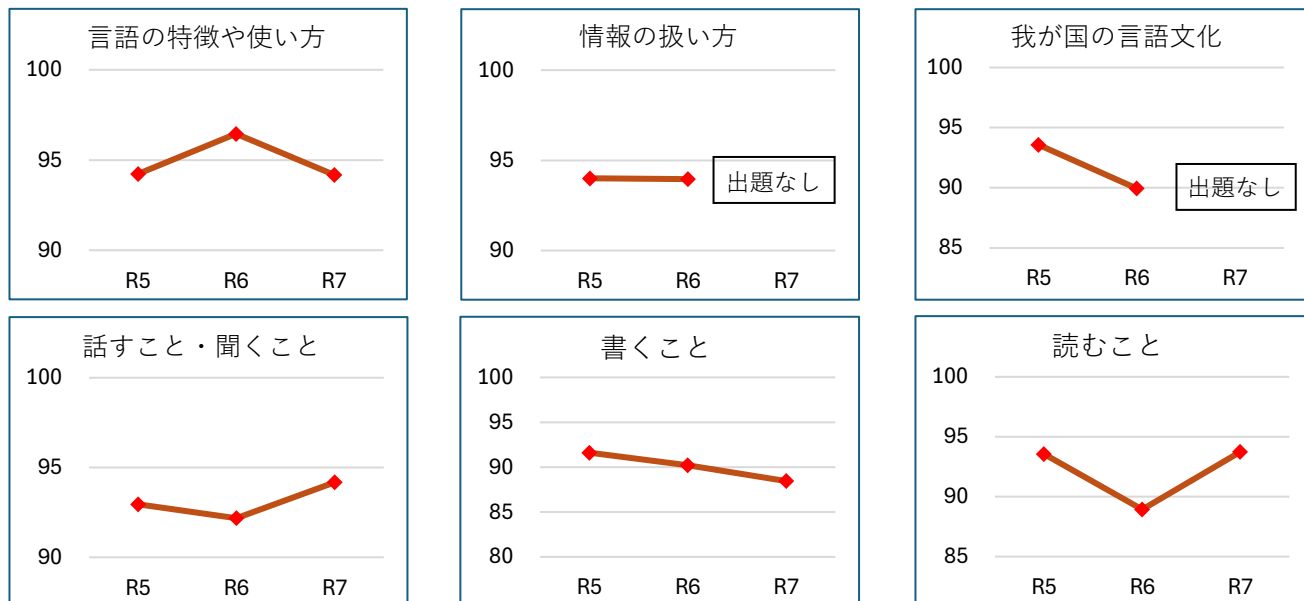
定着層：10～14問

● 領域等、評価の観点、問題形式の平均正答率



● 領域等の経年変化

※全国平均を100とする



● 結果の概要

◇国語の正答率は全国、全道より、やや低い結果となりました。令和6年度との比較では、全国との差は同様の結果となりました。

◇領域別「知識及び技能」についての結果です。

「言葉の特徴や使い方に関する事項」は全国とほぼ同様（下位）であり、全道よりやや低い

◇領域別「思考力、判断力、表現力等」についての結果です。

「話すこと・聞くこと」は、全国、全道ともにやや低い

「書くこと」は、全国より低く、全道よりやや低い

「読むこと」は、全国、全道ともにやや低い

◇問題形式別の正答率では、「選択式」は全道・全国よりやや低い、「短答式」は全国より相当低く、全道よりも低い、「記述式」は全国よりやや低く、全道とほぼ同様（下位）の結果となりました。

● 調査問題の内容

学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づいて、その全体を視野に入れながら、中心的に取り上げるものを精選して出題されています。なお、中学校第2学年までの内容となっています。

（例）

- 文章中の事象や行為を表す語句の意味として適切なものを選択する。
- 発表の内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について助言する。
- 手紙の下書きを修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く。
- 物語の構成や展開による効果について、自分の考えを理由とともに書く。
- 問題数は14問です。

● 成果の見られる問題例

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	平均正答率%		
				石狩市	北海道	全国
2 三	「話の順序を入れ替えた方がよい」という助言の意図を説明したものと適切なものを選択する	自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができるかどうかをみる	話すこと・聞くこと	71.4	73.7	73.4
3 二	「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く	文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかをみる	読むこと	85.7	90.5	89.9

● 全国平均と差がある問題例

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	平均正答率%		
				石狩市	全国	全国との差
1 二	ちらしに「会場図」を加えた目的を説明したものと適切なものを選択する	目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる	書くこと	72.1	82.5	-10.4
4 一	手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する	読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる	書くこと	46.7	57.3	-10.6

● 指導の改善

【問題番号 1 二 書くこと】

- 案内文など実用的な文章を書く際には、相手や目的に応じて材料を比較しながら、伝えるべき事柄を取捨選択するなど、集めた材料を整理して簡潔に分かりやすく書く必要があります。
- ・ 同じ行事を案内するウェブページとちらしについて、盛り込む内容を検討する学習活動ではウェブページとちらしを比較しながら、それぞれが想定する相手や目的などを具体的に考える必要な情報を取捨選択させることが大切です。

【問題番号 4 一 書くこと】

- 書いた文章を推敲する際には、伝えようとするものが伝わるように、読み手の立場に立って、文字や表記が正しいか、漢字と仮名の使い分けが適切かなどを確かめて文章を整えることが重要です。
- ・ 書いた文章を読み返す必然性がある言語活動を設定し、既習の事項を生かして文章を整えることができるように指導することが大切です。
- ・ 漢字を「文や文章の中で使う」際、誤って使った漢字を書きためておくことや、同音意義語など、意味や表記を間違えやすい漢字を日頃から意識して使う指導をすることも大切です。

● 国語に関する意識調査（生徒質問調査項目44～51、国1より）

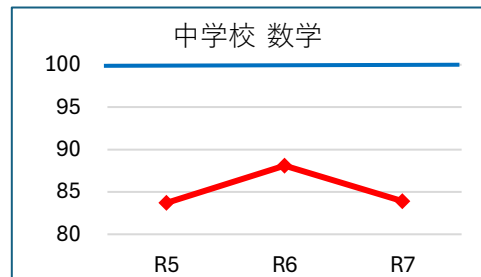
質問内容		肯定的な回答%		全国との差%
		石狩市	全国	
44	国語の勉強は得意ですか	58.1	51.4	6.7
45	国語の勉強は好きですか	60.3	57.9	2.4
46	国語の授業内容はよく分かりますか	76.1	77.0	-0.9
47	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	92.0	88.3	3.7
48	国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えますか	75.0	72.9	2.1
49	国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてください	71.1	70.2	0.9
50	国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えていますか	75.7	74.0	1.7
51	国語の授業で、文章を書いた後に、読み手の立場に立って読み直し、語句の選び方や使い方、文や段落の長さ、語順などが適切かどうかを確かめて文章を整えていますか	75.2	73.6	1.6
国1	今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか」について、「最後まで努力した」と回答	61.5	65.3	-3.8
	4問あった記述式問題の無解答率の平均	18.1	13.2	4.9

【数 学】

● 平均正答率

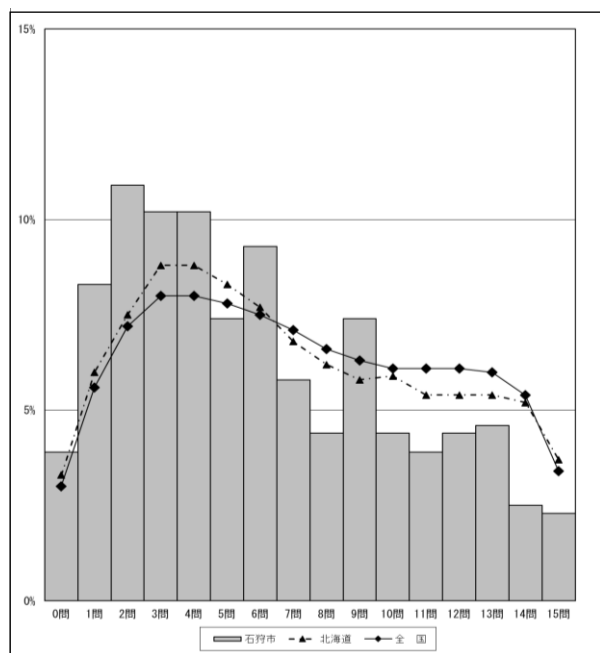
	平均正答数	平均正答率	石狩市（全国、全道との比較）
全国	7.2/15問	48.3%	相当低い （－7%以下）
全道	7.0/15問	46.7%	低い （－5%以下～－7%未満）

● 経年変化

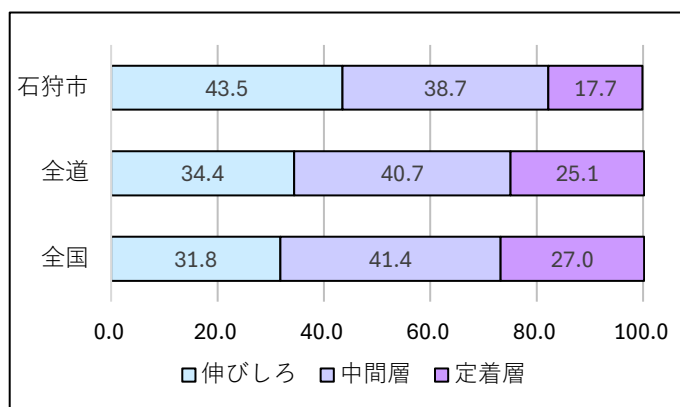


※全国平均を100とする

● 正答数分布

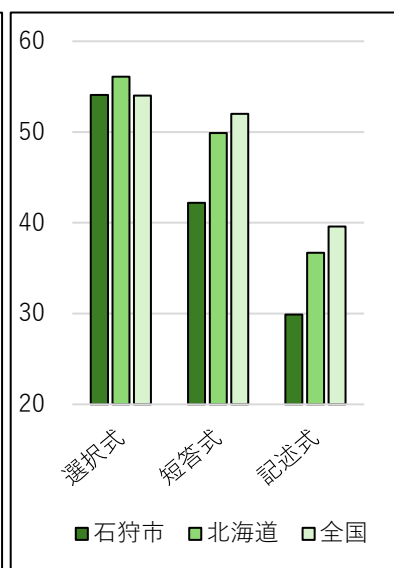
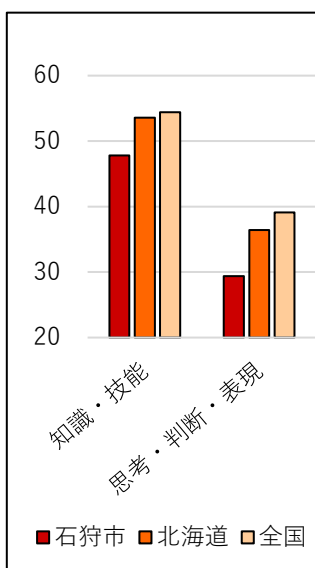
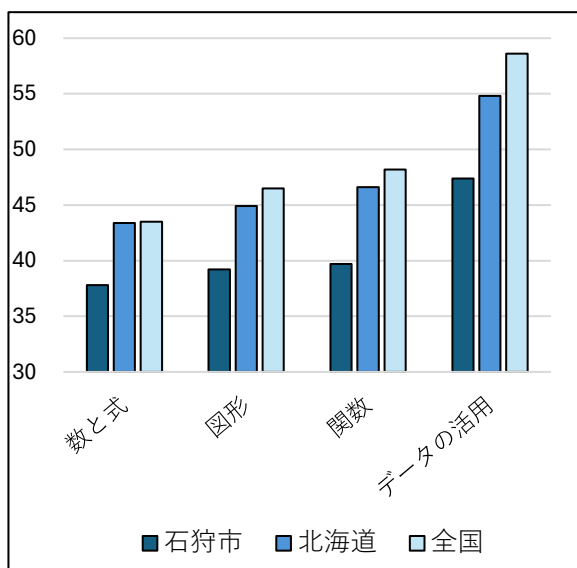


● 三層割合



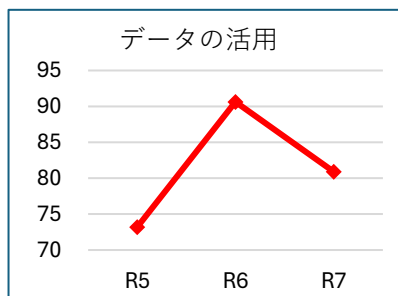
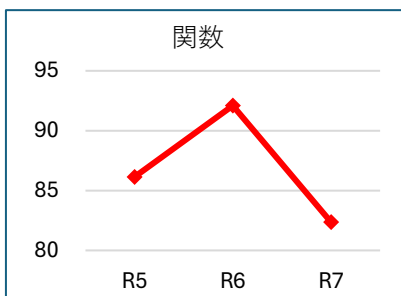
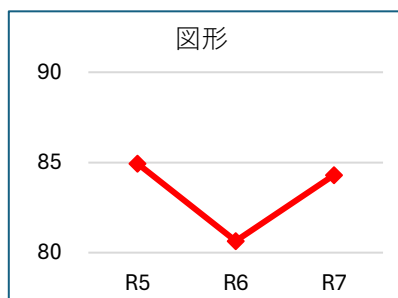
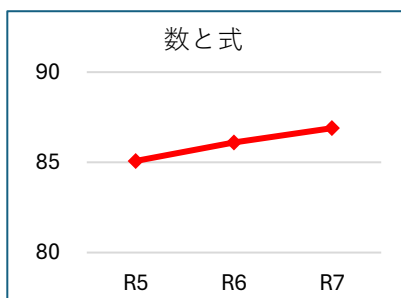
伸びしろ層：正答数0～4問
中間層：5～10問
定着層：11～15問

● 領域等、評価の観点、問題形式の平均正答率



● 領域等の経年変化

※全国平均を100とする



● 結果の概要

- ◇数学の平均正答率は、全国より相当低く、全道より低い結果でした。令和6年度との比較では、全国との差が広がりました。
- ◇領域別では、「数と式」では全国、全道より低く、「図形」と「関数」では、全国より相当低く全道より低い結果でした。また、「データの活用」では、全国、全道より相当低い結果でした。
- ◇問題形式の正答率では、「選択式」で全国と同様で、全道とほぼ同様（下位）、「短答式」では全国、全道より相当低い結果でした。また、「記述式」は全国より相当低く、全道より低い結果でした。

● 調査問題の内容

学習指導要領における、「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題しています。なお、中学校第2学年までの内容となっています。

(例)

- 一次関数 $y = 6x + 5$ について、 x の増加量が2のときの y の増加量を求める。
- 連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることを説明する。
- Aの手元のカードが「グー」、「チョキ」、「パー」、「パー」の4枚、Bの手元のカードが「グー」、「チョキ」の2枚のとき、AとBの勝ちやすさについて確率を用いて説明する。
- A駅から60.0km地点につくられる新しい駅までの運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する。
- 平行四辺形になるための条件を用いて四角形が平行四辺形になることを証明する。
- 設問数は15問です。

● 成果の見られる問題例

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	平均正答率%		
				石狩市	北海道	全国
1	1 から 9 までの数の中から素数を全て選ぶ	素数の意味を理解しているかどうかをみる	数と式	42.4	40.5	31.8
8 (1)	A 駅からの走行距離と運賃の関係を表すグラフの何を読み取れば C 駅と D 駅間の走行距離が分かるかを選ぶ	事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる	関数	68.8	70.5	71.9

● 全国平均と差がある問題例

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	平均正答率%		
				石狩市	全国	全国との差
2	果汁 40% の飲み物 a mL に含まれる果汁の量を、a を用いた式で表す	数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる	数と式	41.2	51.9	-10.7
4	一次関数 $y = 6x + 5$ について、x の増加量が 2 のときの y の増加量を求める	一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、x の増加量に対する y の増加量を求めることができるかどうかをみる	関数	21.5	34.7	-13.2
5	ある学級の生徒 40 人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20 m 以上 25 m 未満の階級の相対度数を求める	相対度数の意味を理解しているかどうかをみる	データの活用	26.4	42.5	-16.1
6 (3)	連続する三つの 3 の倍数の和が、9 の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	数と式	27.1	45.2	-18.1

● 指導の改善

【問題番号 2 数と式】

- 事象における数量を捉え、数量を文字を用いた式で表すことができるように指導することが大切です。
- ・ 指導に当たっては、具体的な数や言葉を使った式などを利用して数量を捉えたり、表した数量が正しいかどうかを事象と関連付けて吟味したりする活動を取り入れることが大切です。

【問題番号 4 関数】

- 一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることができるように指導することが大切です。
- ・ 本問を使って授業を行う際には、まず、増加量や変化の割合の意味、一次関数の変化の割合が一定であることを確認した上で、一次関数 $y = 6x + 5$ において、 x の増加量が 2 のときの y の増加量を求める場面を設定することが考えられます。その際、 $y = 6x + 5$ の変化の割合は 6 で一定であり、変化の割合は y の増加量 / x の増加量 で求められることから、 x の増加量が 2 のときの y の増加量を求められるようにすることが大切です。

【問題番号 5 データの活用】

- ある階級の度数の総度数に対する割合を求めて、データの特徴を読み取る活動を通して、相対度数の必要性和意味を理解できるように指導することが大切です。
- ・ 本問を使って授業を行う際には、「各階級における生徒数の、学級の全生徒数に対する割合」を求め、データの分布の傾向を考察する場面を設定することが考えられます。その際、例えば、記録が 20 m 以上 25 m 未満の生徒の割合である 0.25 は、20 m 以上 25 m 未満の階級の相対度数であり、相対度数は、全体（総度数）に対する部分（各階級の度数）の割合を示す値であることを理解できるようにすることが大切です。

【問題番号 6 (3) 数と式】

- 事柄が一般的に成り立つ理由を、構想を立て、文字式や言葉を用いて根拠を明確にして説明できるように指導することが大切です。
- ・ 本設問を使って授業を行う際には、連続する三つの 3 の倍数を文字を用いて表して、その和を $9 \times (\text{整数})$ の形の式に変形すればよいという見通しをもち、計算結果を式変形して説明できるようにすることが大切です。

● 数学に関する意識調査（生徒質問調査項目52～59、数1より）

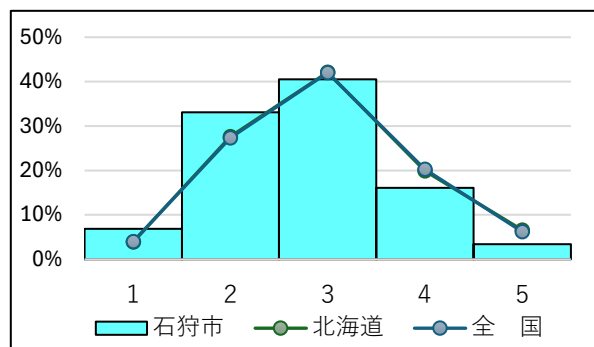
質問内容		肯定的な回答%		全国との差%
		石狩市	全国	
52	数学の勉強は得意ですか	39.2	46.0	-6.8
53	数学の勉強は好きですか	52.5	53.8	-1.3
54	数学の授業内容はよく分かりますか	62.6	70.3	-7.7
55	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	68.1	75.2	-7.1
56	数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	53.2	57.9	-4.7
57	数学の問題の解き方が分からない時は、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	75.6	76.2	-0.6
58	数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか	53.5	58.6	-5.1
59	文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができますか	62.9	67.1	-4.2
数1	今回の数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたが、どのように解答しましたか」について、「最後まで努力した」と回答	51.7	54.9	-3.2
	5問あった記述式問題の無解答率の平均	30.4	22.8	7.6

【理 科】

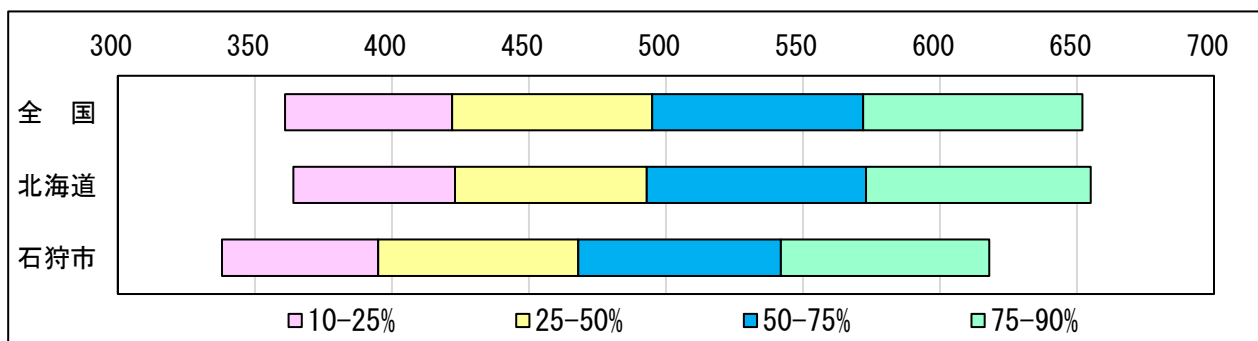
● 平均IRTスコア

	平均IRTスコア	石狩市（全国、全道との比較）
全国	503	低い (466以下475未満)
全道	505	低い (466以下475未満)

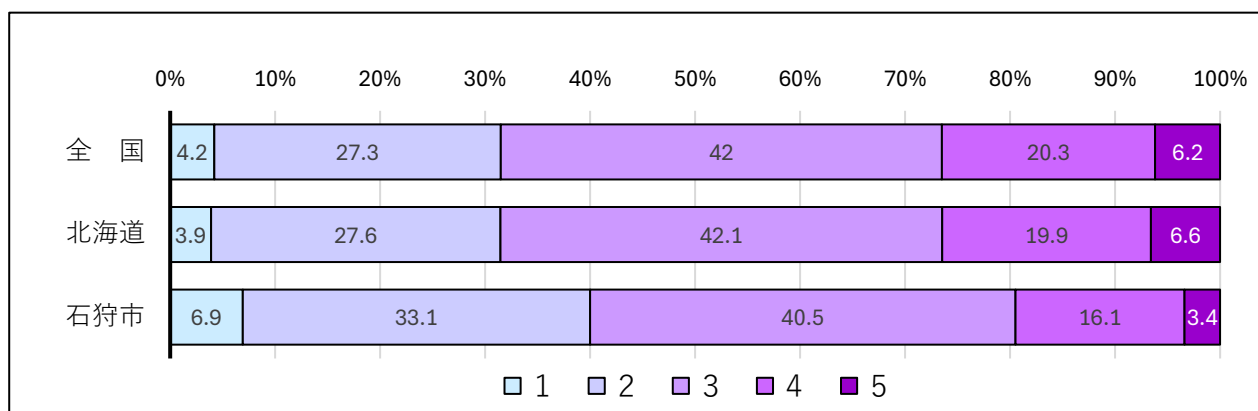
● IRTバンド分布グラフ



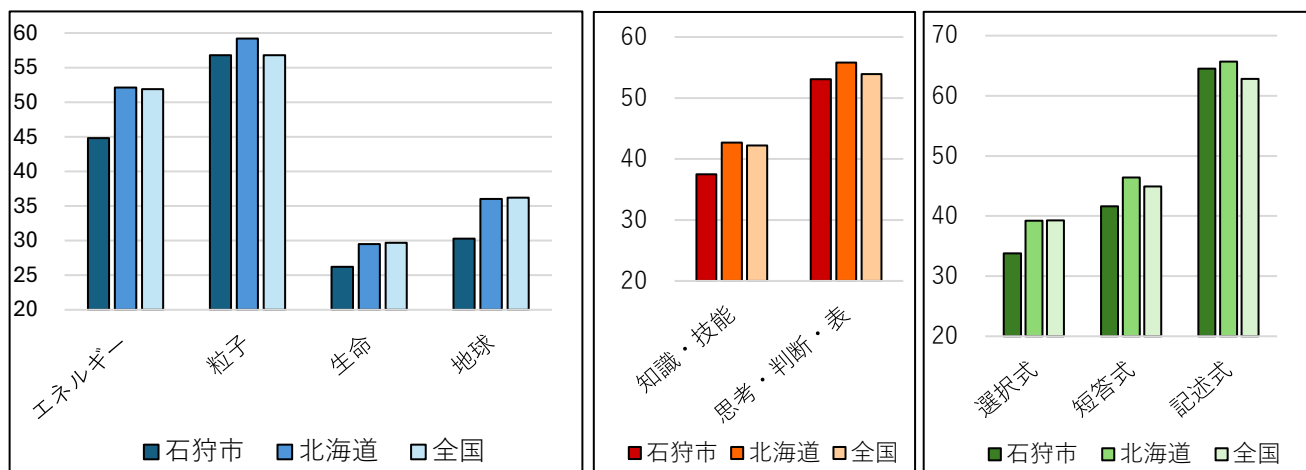
● IRTスコア分布グラフ



● IRTバンド分布比較

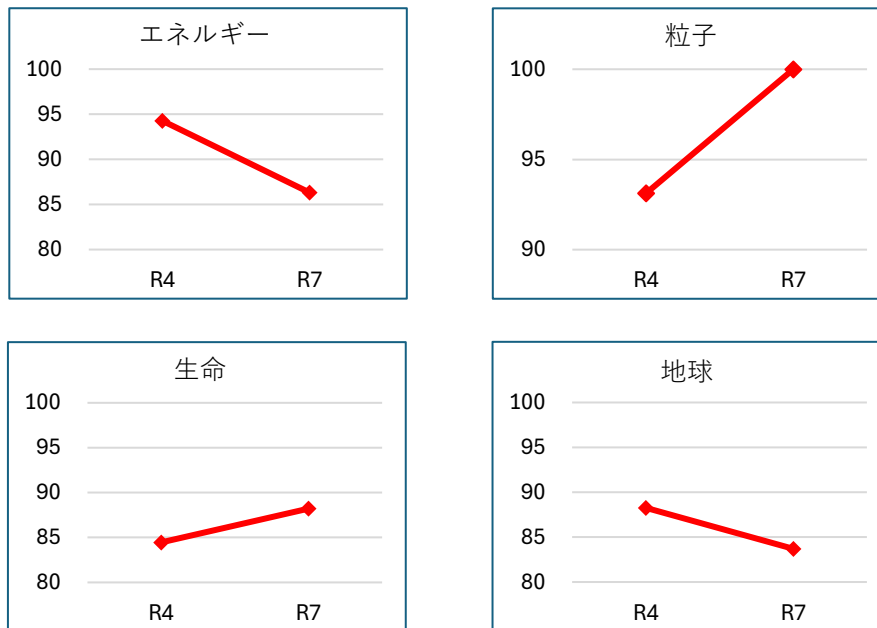


● 領域等、評価の観点、問題形式の平均正答率（市内全生徒に実施した共通問題6問の結果）



● 領域等の経年変化

※全国平均を100とする



● 結果の概要

- ◇平均 I R T スコアでは、全国、全道より低い結果でした。
- ◇市内全生徒に実施した共通問題 6 問における領域別では、「エネルギー」では全国、全道より相当低く、「粒子」では全国と同様、全道とほぼ同様（下位）の結果でした。また、「生命」では全国、全道よりやや低く、「地球」では、全国、全道より低い結果でした。
- ◇市内全生徒に実施した共通問題 6 問における問題形式の正答率では、「選択式」で全国、全道より低く、「短答式」は全国、全道よりやや低い結果でした。また、「記述式」は全国とほぼ同様（上位）、全道とほぼ同様（下位）の結果でした。

● 調査問題の内容

学習指導要領における第 1 分野の「エネルギー」を柱とする領域と「粒子」を柱とする領域、第 2 分野の「生命」を柱とする領域と「地球」を柱とする領域からバランスよく出題することとしています。調査問題作成の枠組みについては、「知識」、「技能」、「分析・解釈」、「構想」、「検討・改善」の視点から整理し、第 2 学年までの内容となっています。

（例）

- ストロー笛をつくり、音について科学的に探究する（「エネルギー」を柱とする領域）
- ドライアイスの中で燃焼するかどうかを科学的に探究する（「粒子」を柱とする領域）
- スケッチの有用性について考える（「生命」を柱とする領域）
- 身近な地域の大地の変化について科学的に探究する（「地球」を柱とする領域）
- 共通問題は 6 問です。

● 成果の見られる問題例

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	平均正答率%		
				石狩市	北海道	全国
1 (2)	「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？」という疑問を解決するための課題を記述する	身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる	粒子	56.3	52.0	46.2

● 全国平均と差がある問題例

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	平均正答率%		
				石狩市	全国	全国との差
1 (1)	電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列とで回路全体の抵抗が大きい装置や速く水が温まる装置を選択する	電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	エネルギー	44.8	51.9	-7.1
1 (6)	水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述する	科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる	粒子	72.6	79.4	-6.8

● 指導の改善

【問題番号1 (1) エネルギー】

- 電圧・電流・抵抗と発生する熱量との関係について、授業で行われる観察、実験等と関連付けて捉えることが大切です。
- ・ 指導に当たっては、これまで授業で行われた観察、実験を想起したり、これまで学習した知識を活用したりして、発生する熱量と直列回路・並列回路における合成抵抗とを関連付けて概念的な理解を深める学習場面を設定することが考えられます。その際、本設問のように、電熱線で水道水を温めて蒸留し、精製水を製造しているなど、身近な生活と関連をもたせながら、生徒の興味・関心を向上させることが大切です。

【問題番号1 (6) 粒子】

- 自然の事物・現象を主体的に探究する活動を促す上で、探究の過程を振り返って新たな疑問をもち、探究を深めるようにすることが大切です。
- ・ 指導に当たっては、例えば、授業の終わりに探究の過程を振り返り、新たな疑問をタブレット端末やワークシート等に記録する学習場面を設定することが考えられます。その際、生徒の多様な疑問を受け入れ、生徒が主体的に探究を深めるように助言することが大切です。

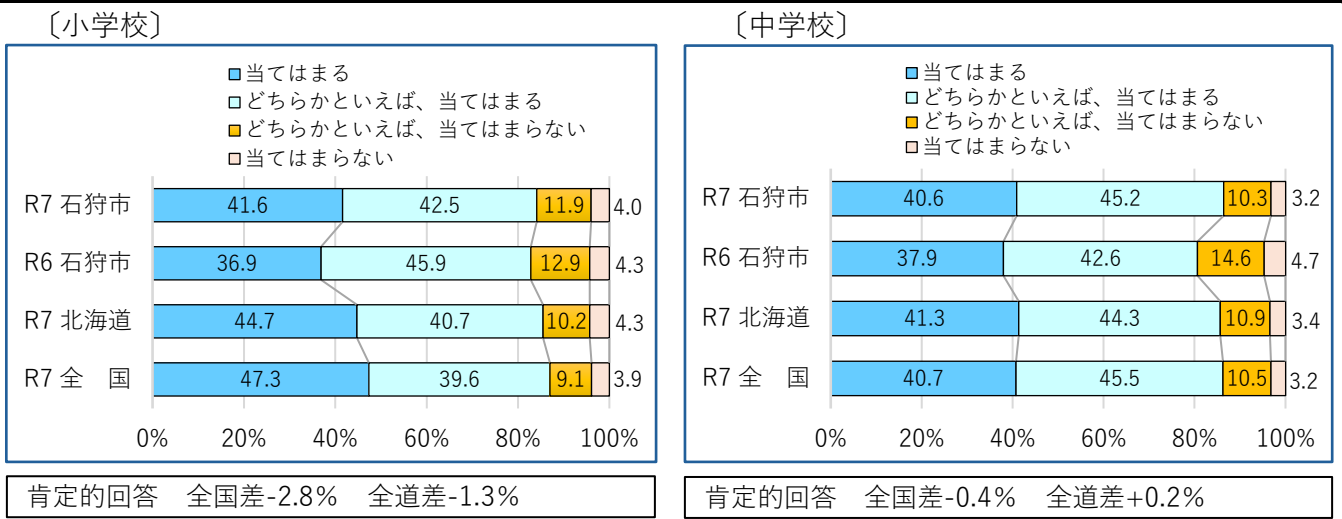
● 理科に関する意識調査（児童質問調査項目60～70、理1より）

質問内容		肯定的な回答%		全国との差%
		石狩市	全国	
60	理科の勉強は得意ですか	49.1	50.7	-1.6
61	理科の勉強は好きですか	70.8	63.8	7.0
62	理科の授業内容はよく分かりますか	69.1	71.4	-2.3
63	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	63.1	63.4	-0.3
64	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたと思いますか	17.9	21.7	-3.8
65	理科の授業で学習した知識を普段の生活の中で活用できていますか	51.6	54.7	-3.1
66	理科の授業で学習した考え方を普段の生活の中で活用できていますか	50.7	50.7	0.0
67	自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか	57.4	56.2	1.2
68	理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか	91.0	85.8	5.2
69	理科の授業では、自分の予想（仮説）をもとに観察や実験の計画を立てていますか	75.0	70.2	4.8
70	理科の授業で、課題について観察や実験をして調べていく中で、自分や友達の学びが深まったか、あるいは、新たに調べたいことが見つかったか、振り返っていますか	71.7	68.4	3.3
理1	共通問題 6 問中2問あった記述式問題の無解答率の平均	12.8	9.0	3.8

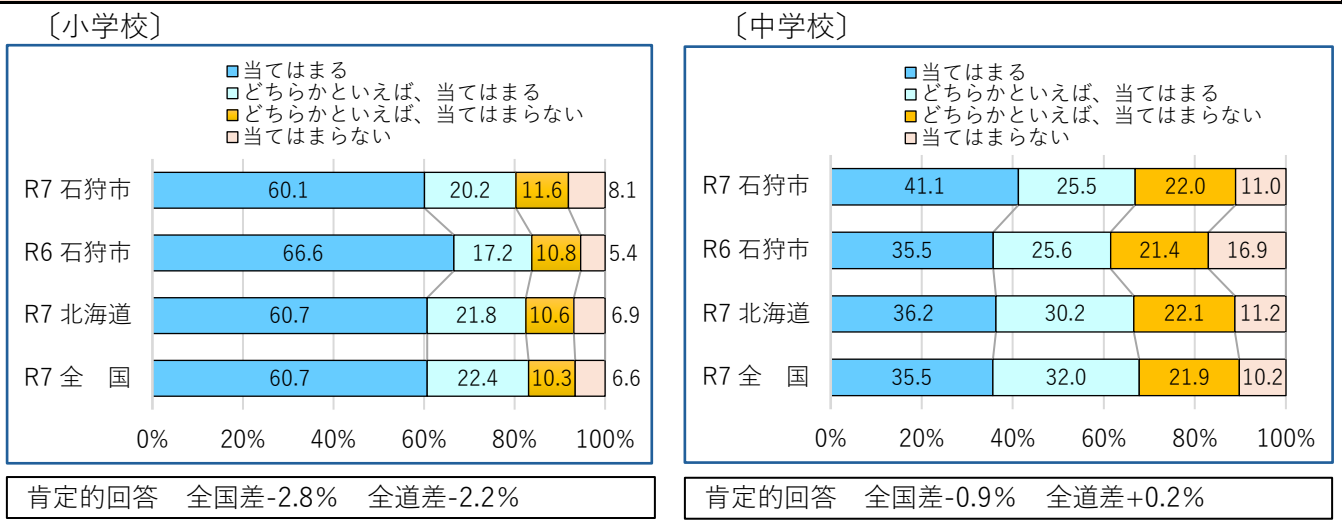
令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果分析
(児童生徒質問調査) について

I 自分自身について

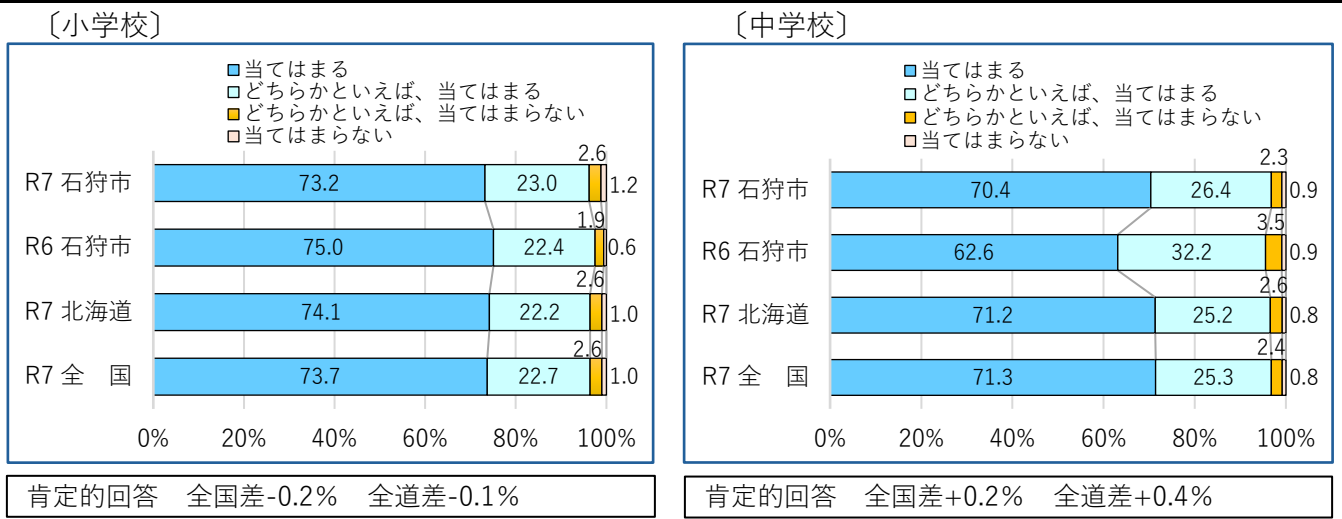
1 自分には、よいところがあると思いますか



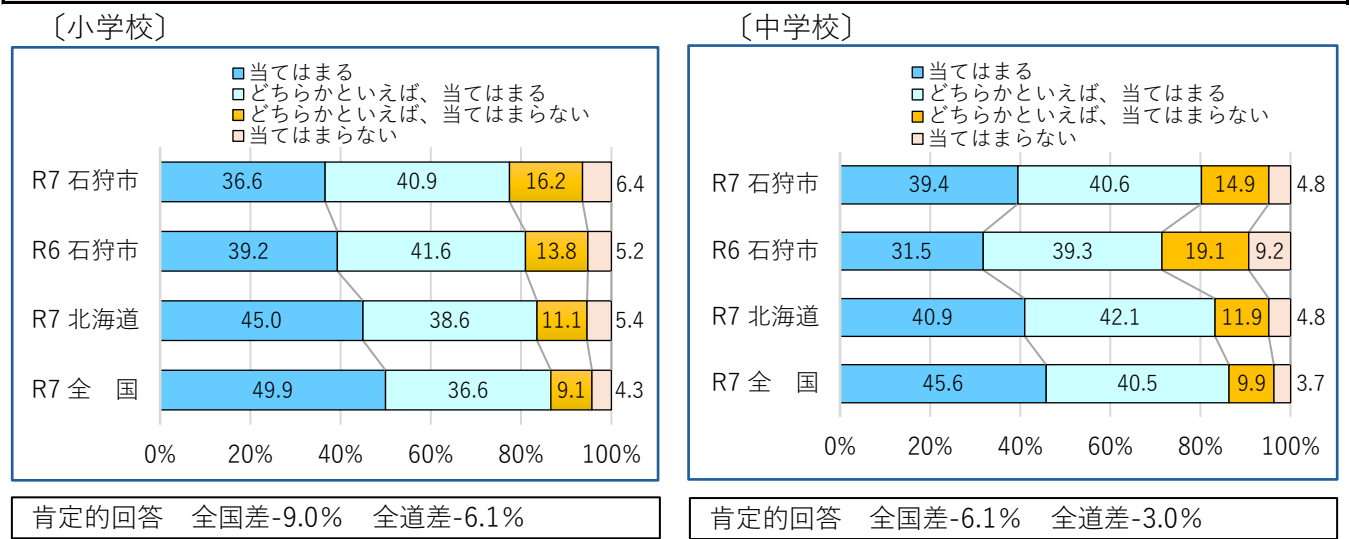
2 将来の夢や目標を持っていますか



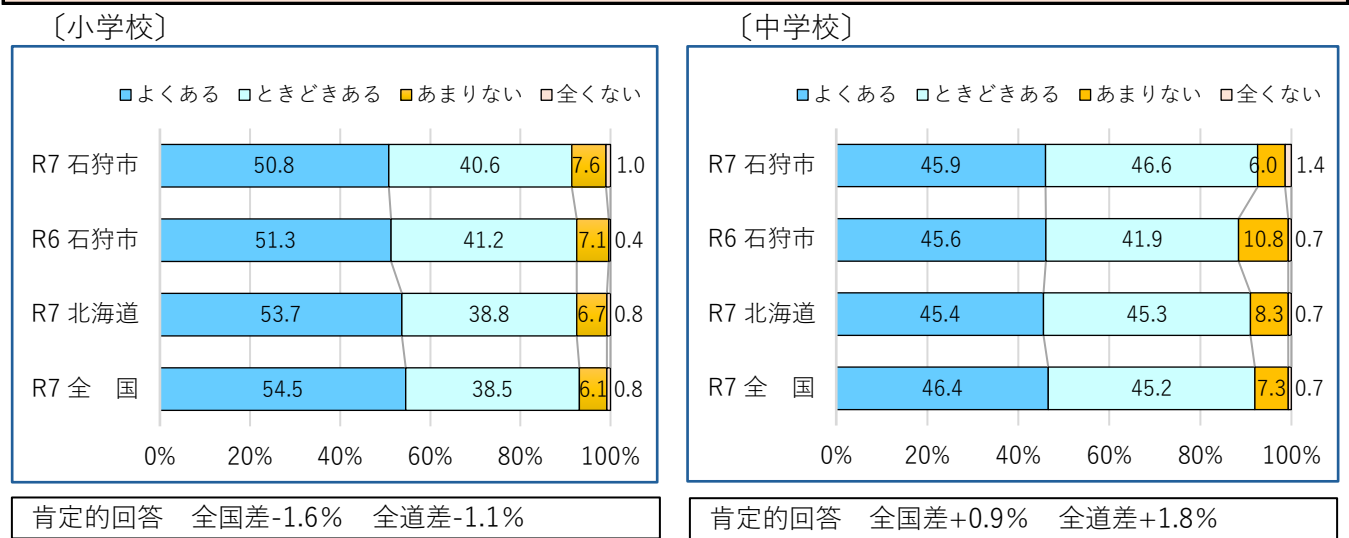
3 人の役に立つ人間になりたいと思いますか



4 学校に行くのは楽しいと思いますか

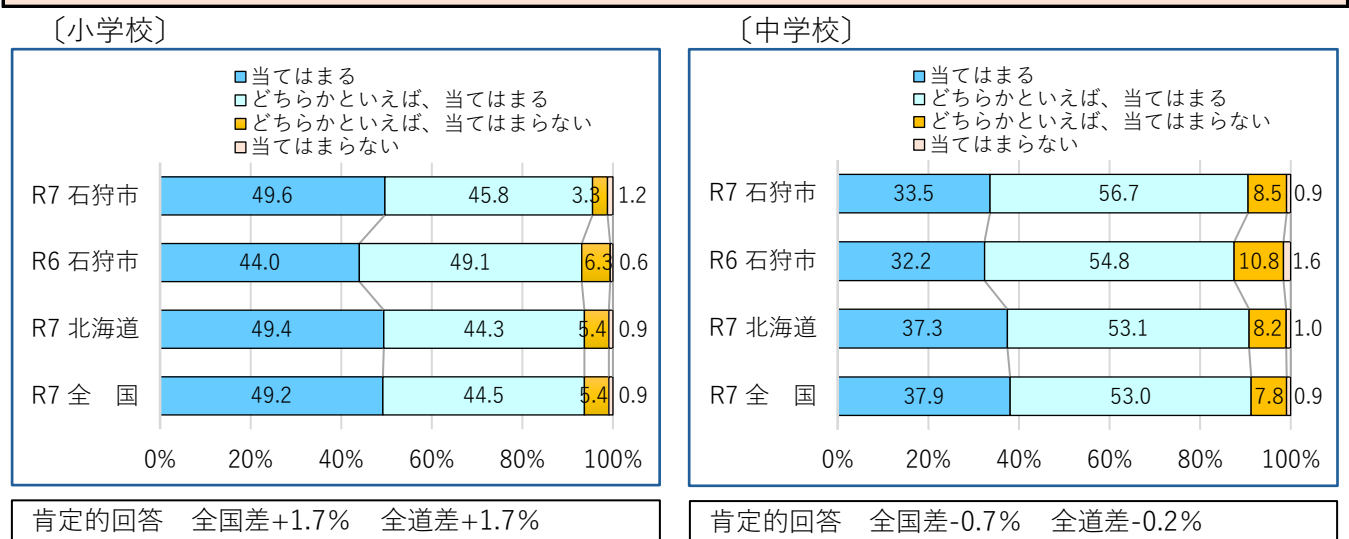


5 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか

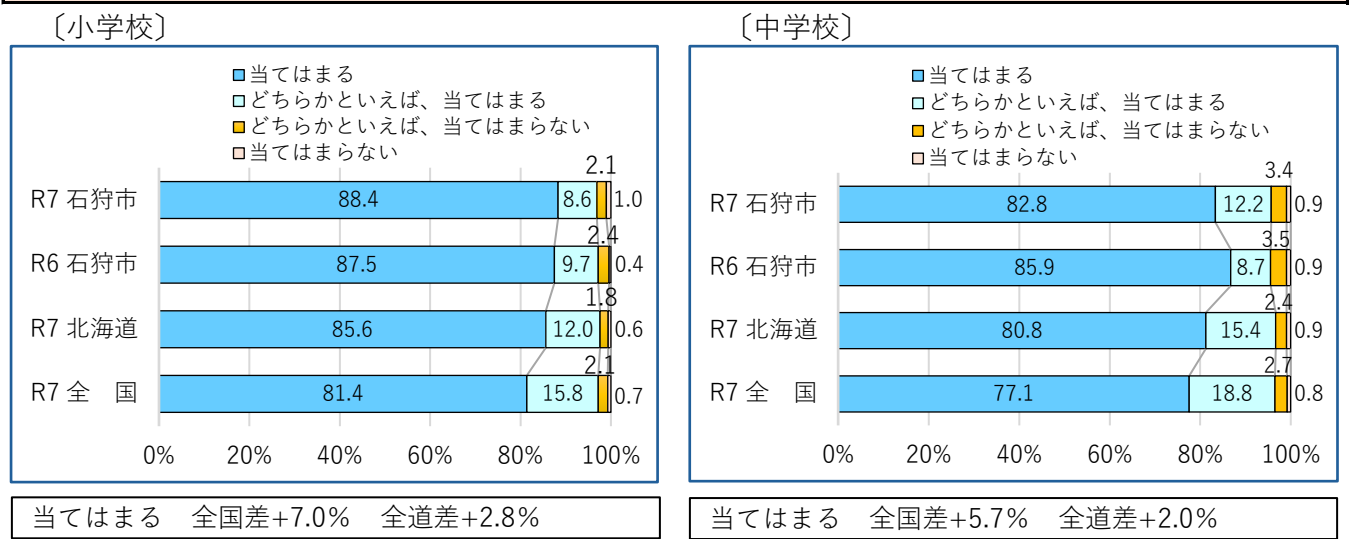


II 人との関わりについて

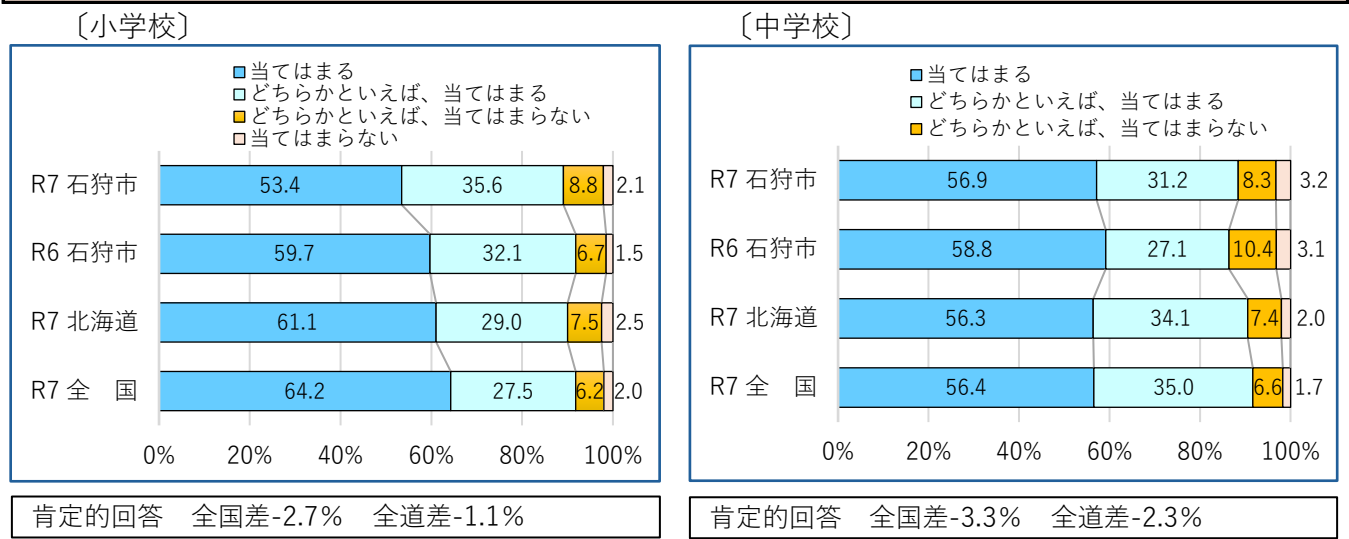
6 人が困っているときは、進んで助けていますか



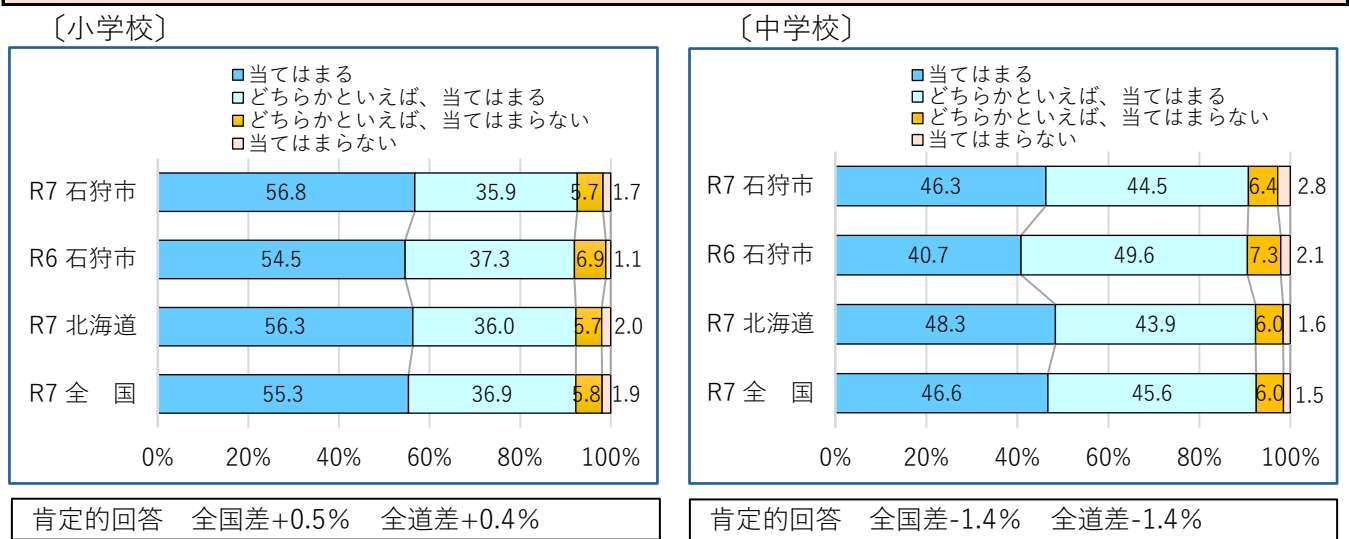
7 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



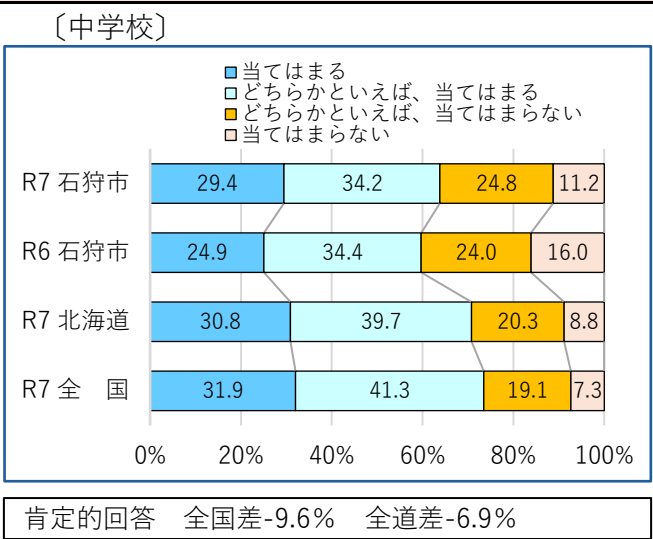
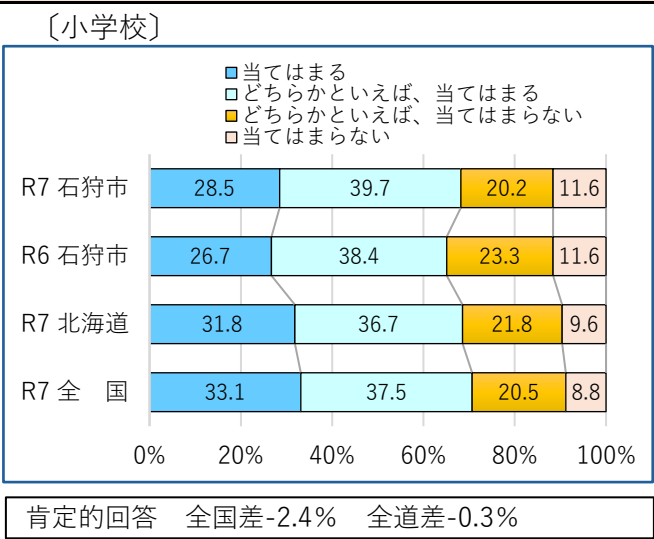
8 友達関係に満足していますか



9 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

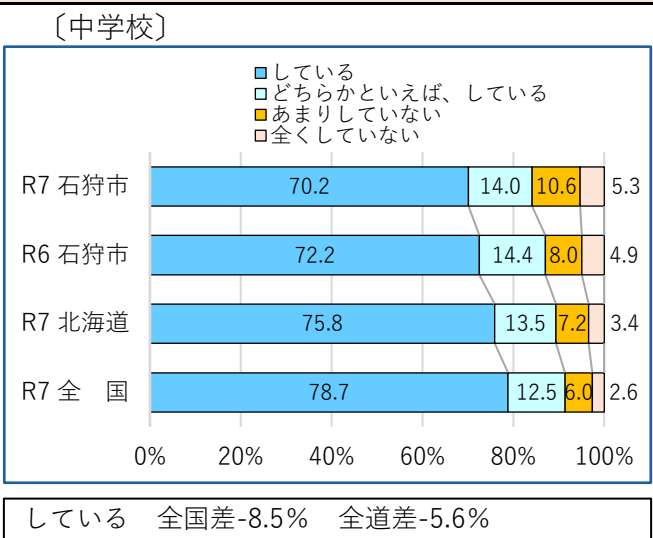
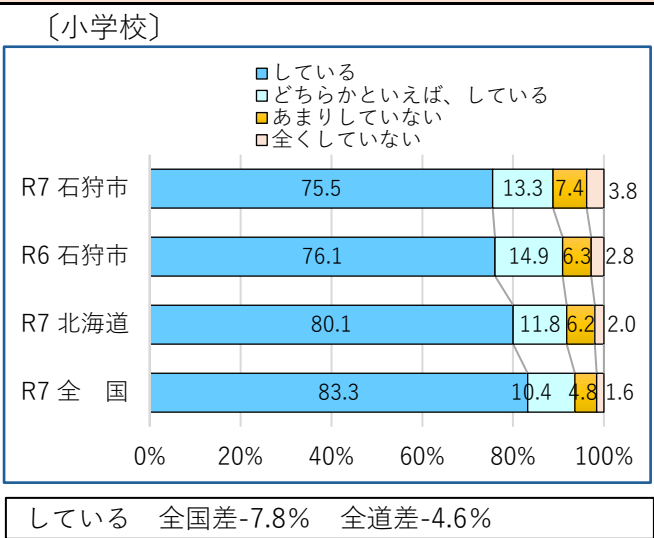


10 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか

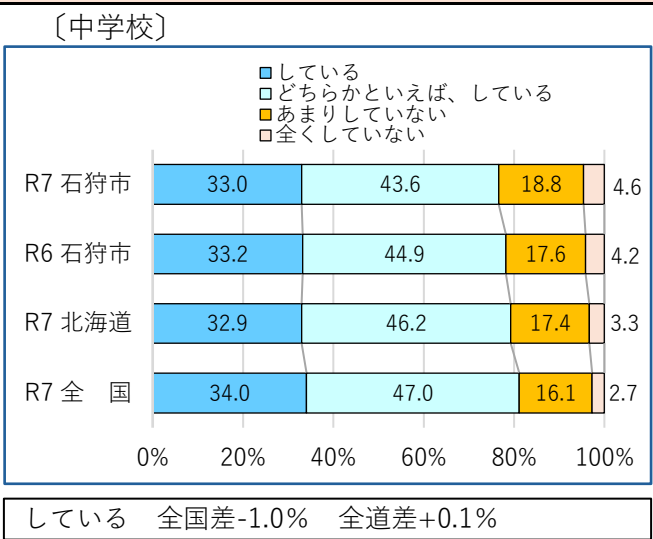
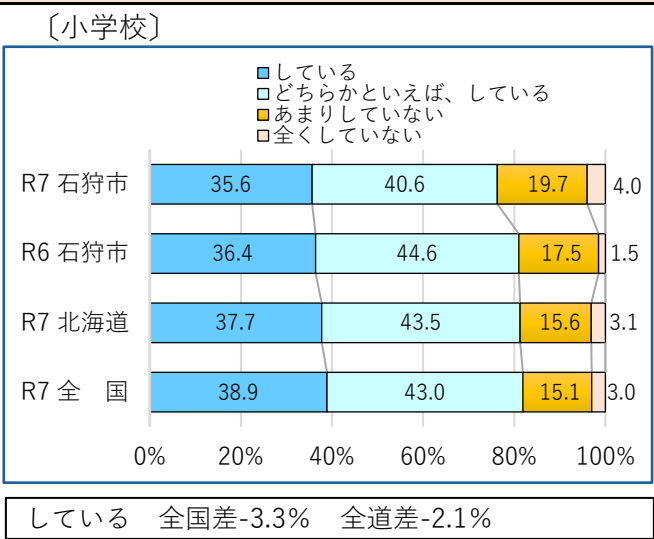


Ⅲ 家庭生活について

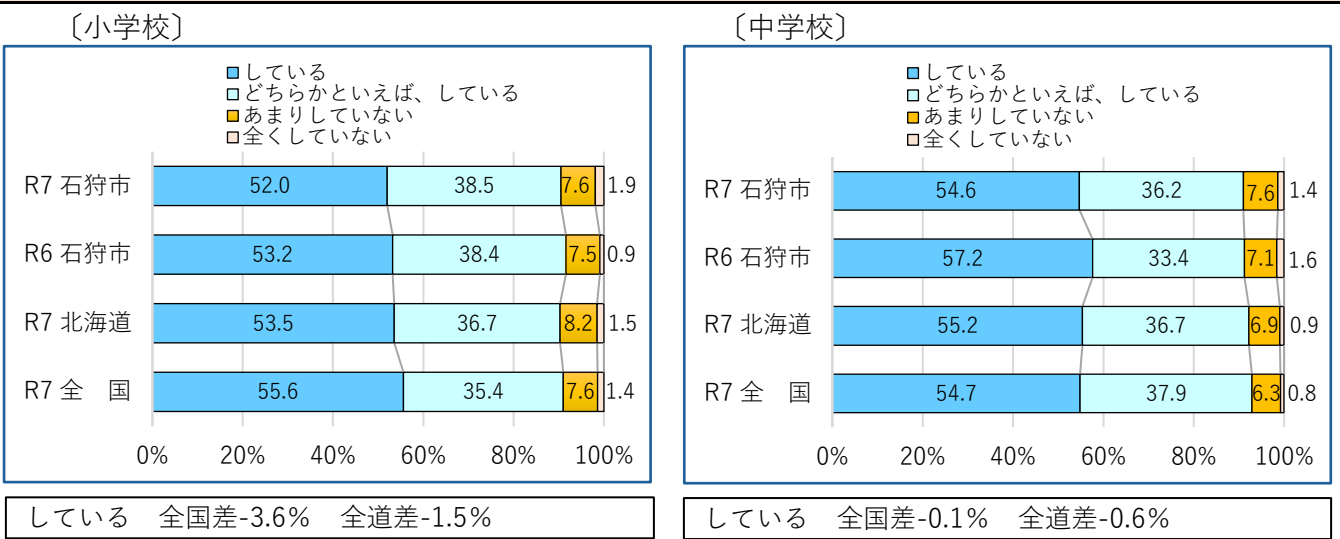
11 朝食を毎日食べていますか



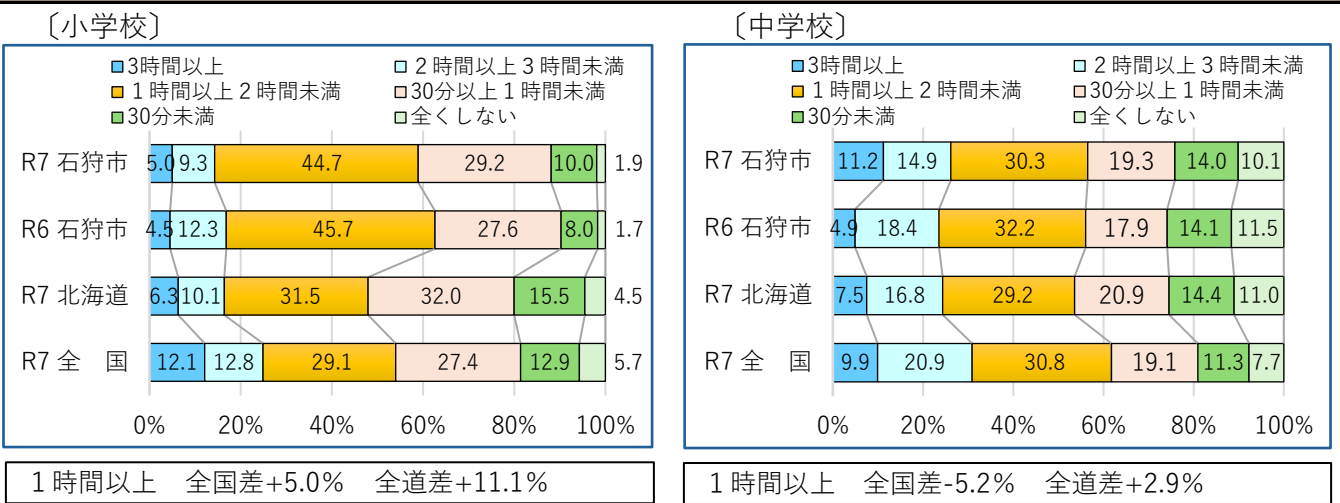
12 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



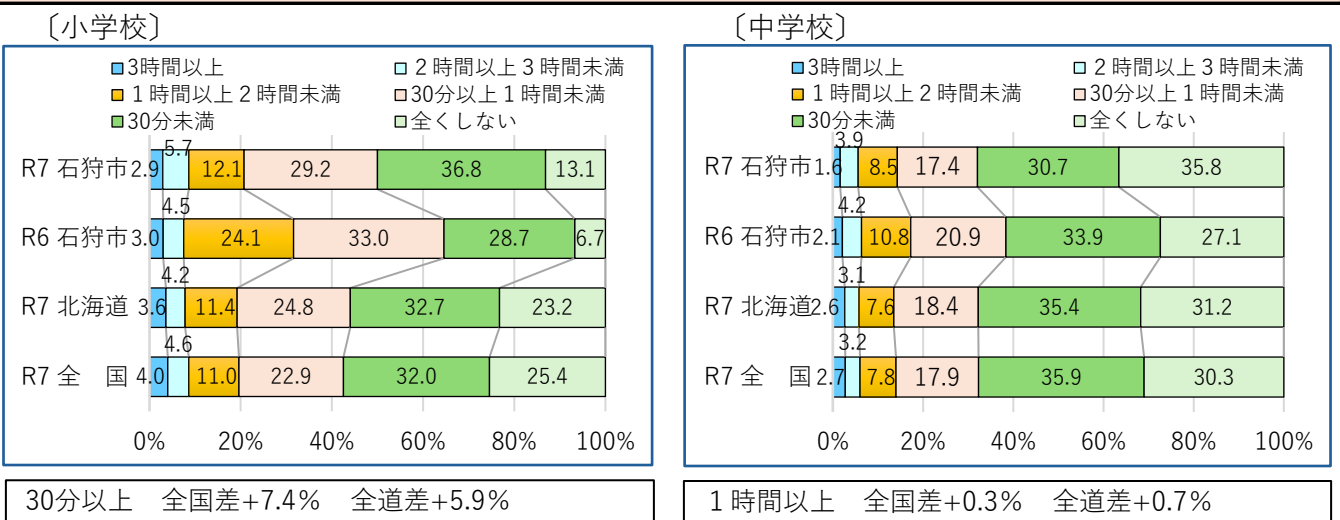
13 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



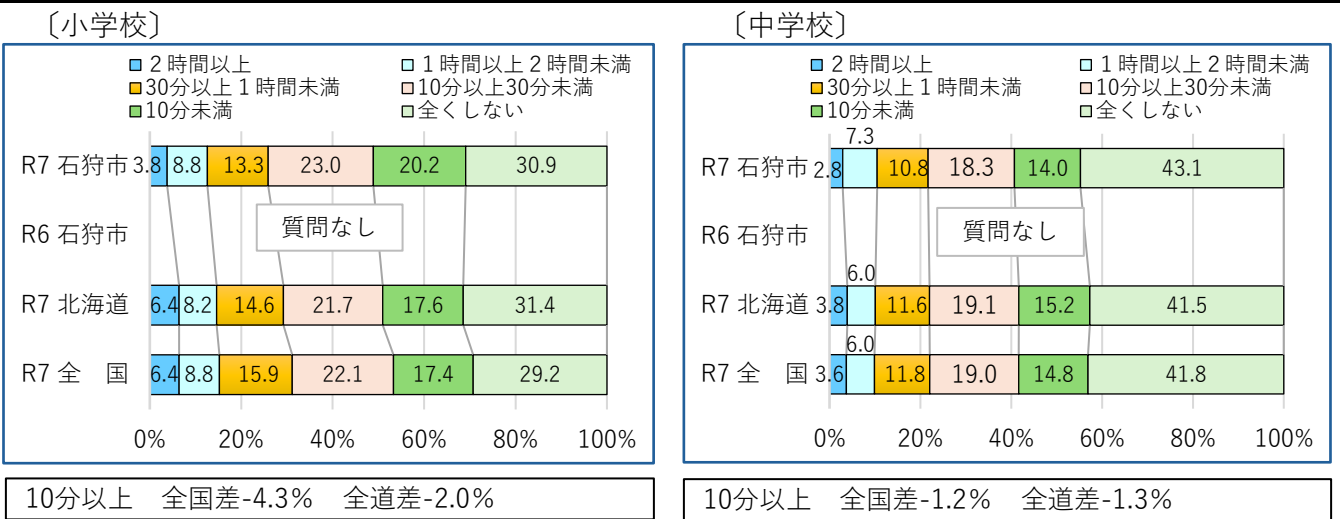
14 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



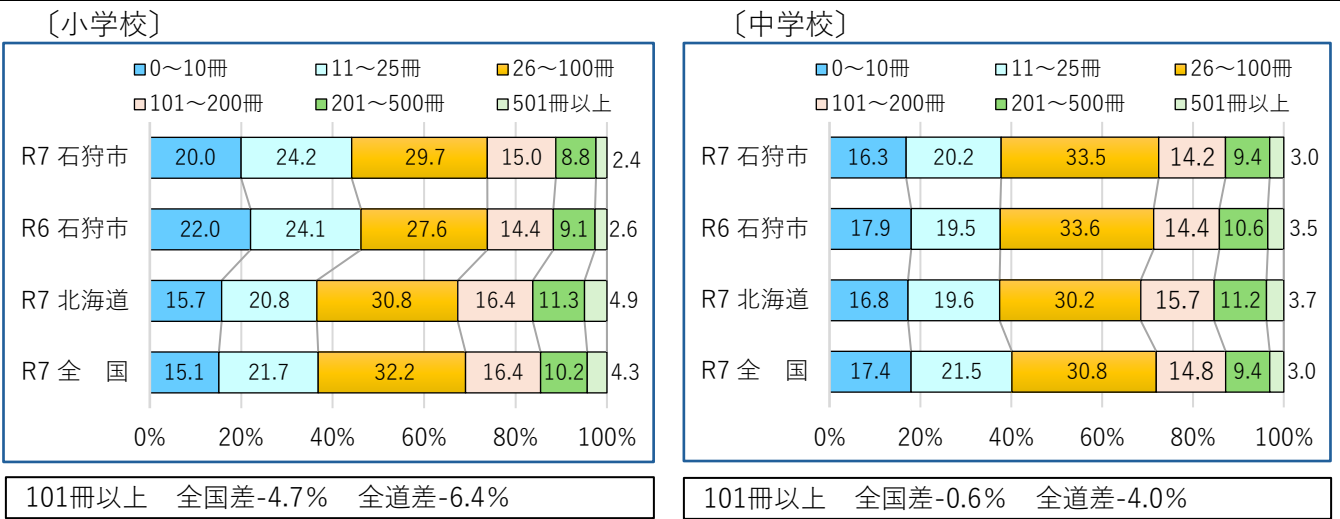
15 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）



16 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を行いますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

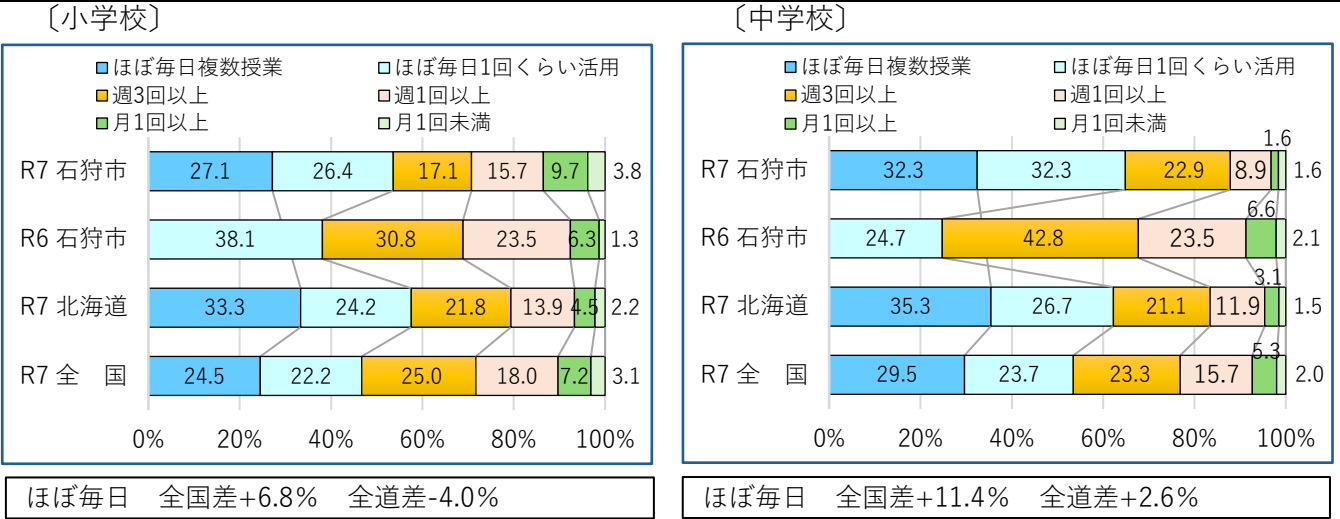


17 あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）

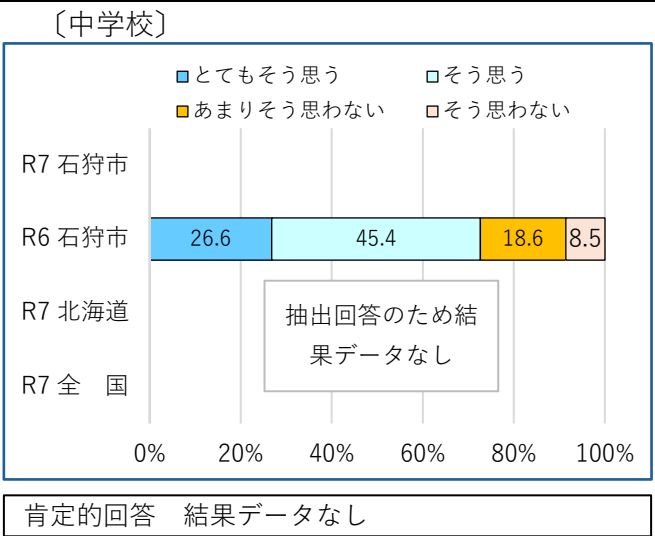
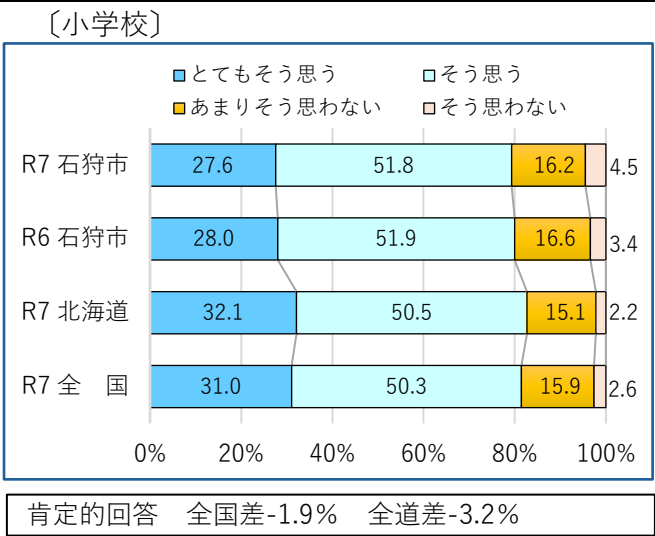


IV 学習について

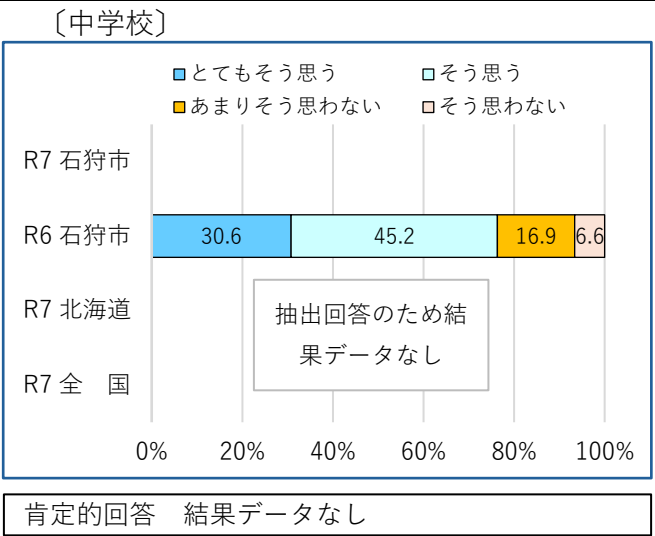
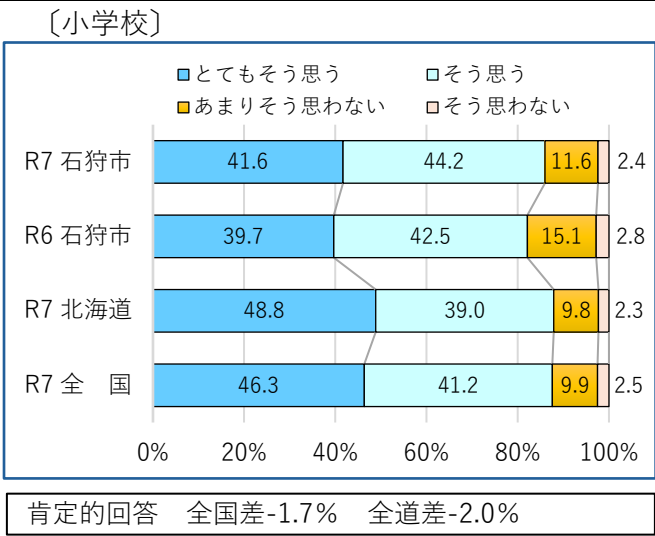
18 小5年〔中1・2年〕までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使いましたか ※R6の選択肢は「ほぼ毎日」で「複数授業・1回くらい活用」と区別がない



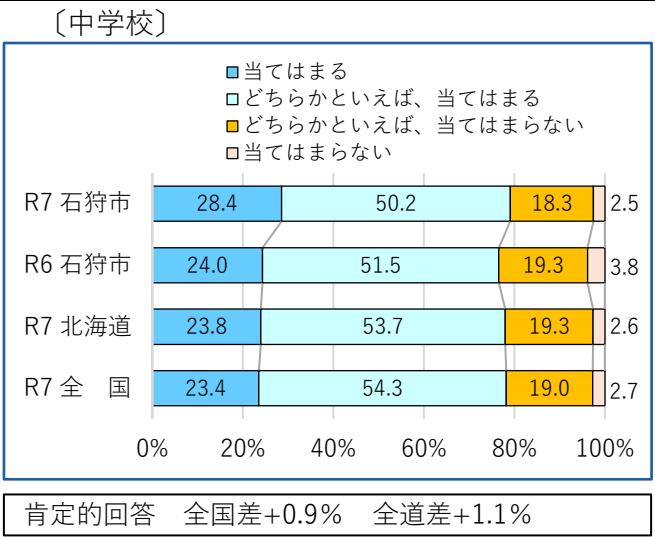
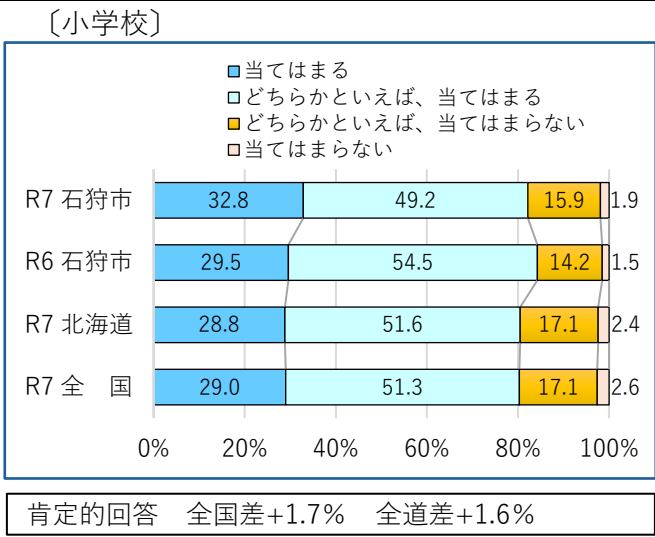
19 PC・タブレットなどのICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができますか



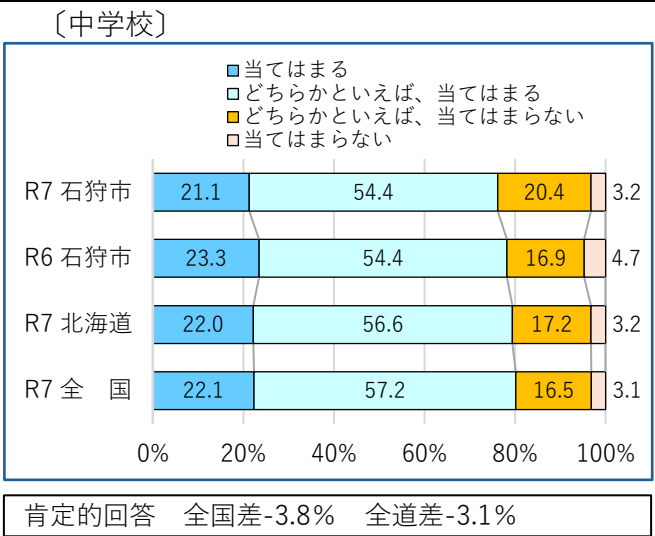
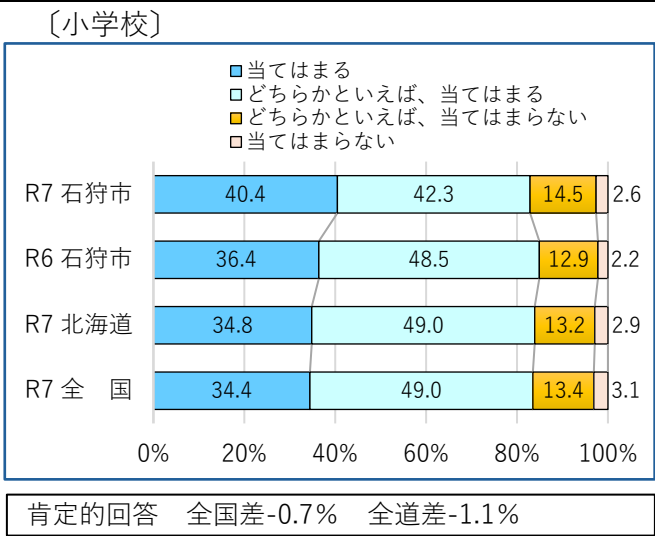
20 PC・タブレットなどのICT機器を活用することで、友達と協力しながら学習を進めることができますか



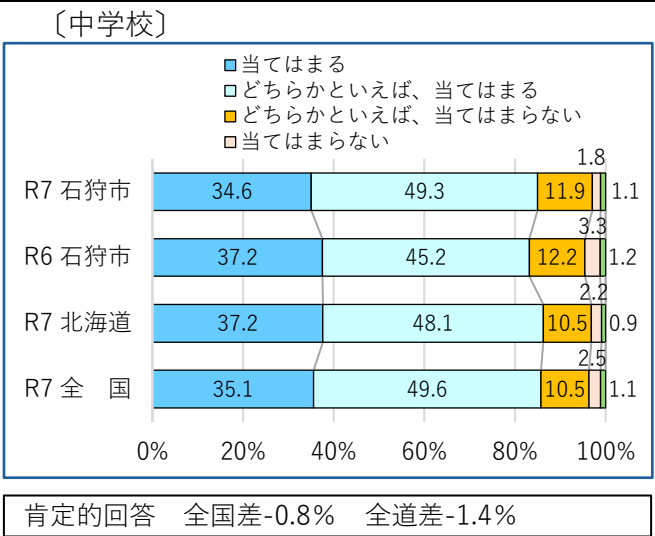
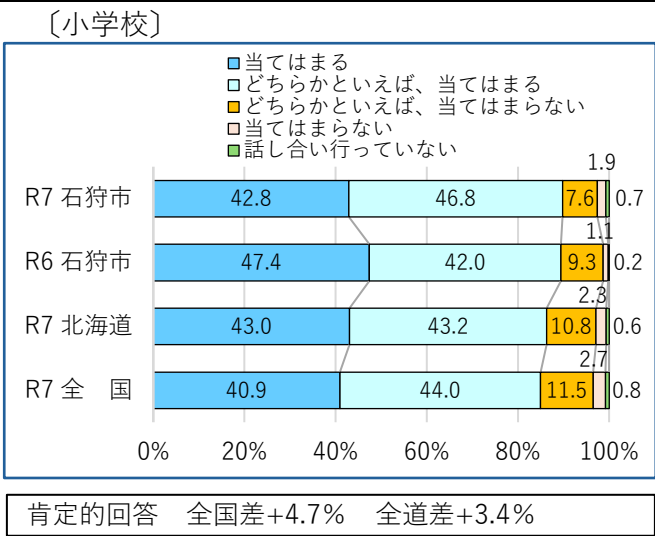
21 小5年〔中1・2年〕までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



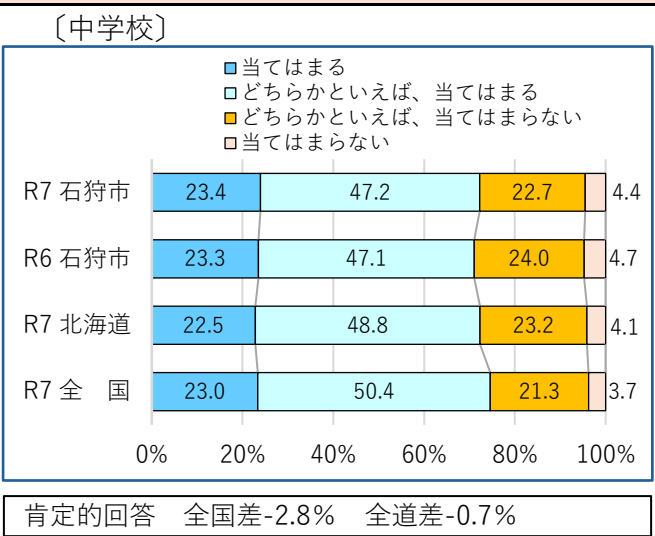
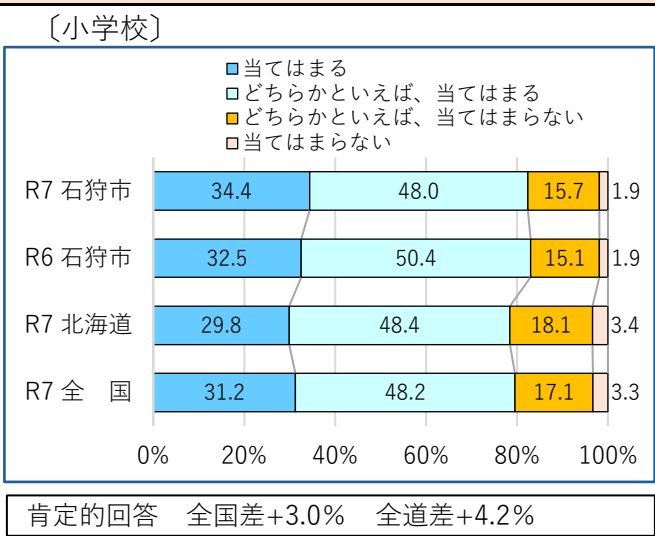
22 小5年〔中1・2年4〕までに受けた授業では、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか



23 小5年〔中1・2年〕までに受けた授業では、学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



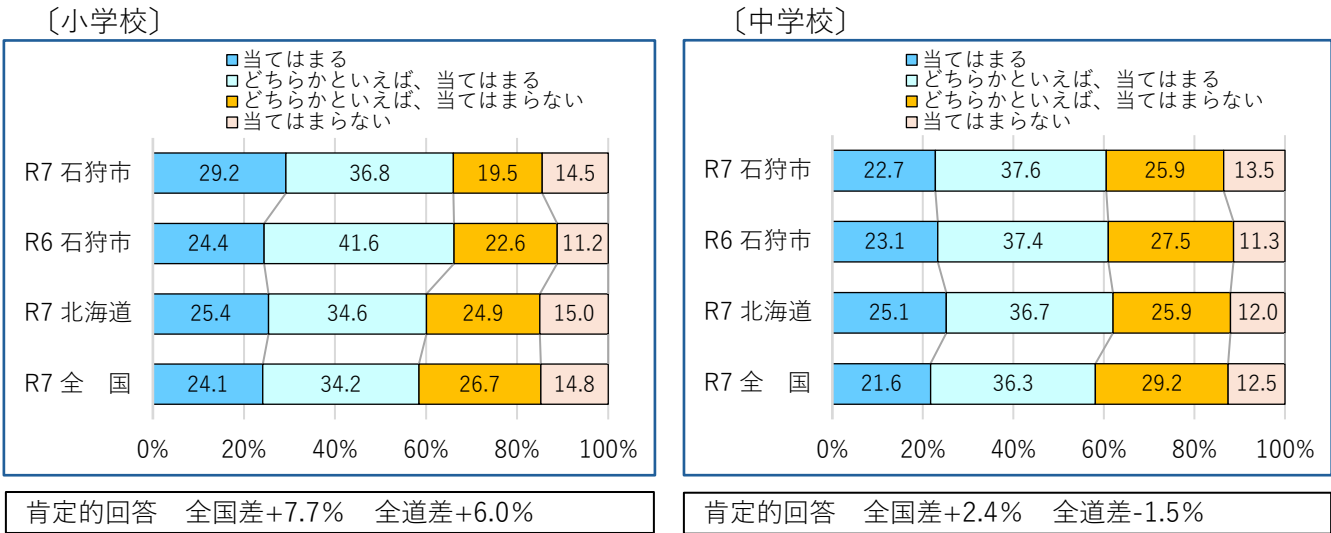
24 小5年〔中1・2年〕までに受けた授業では、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



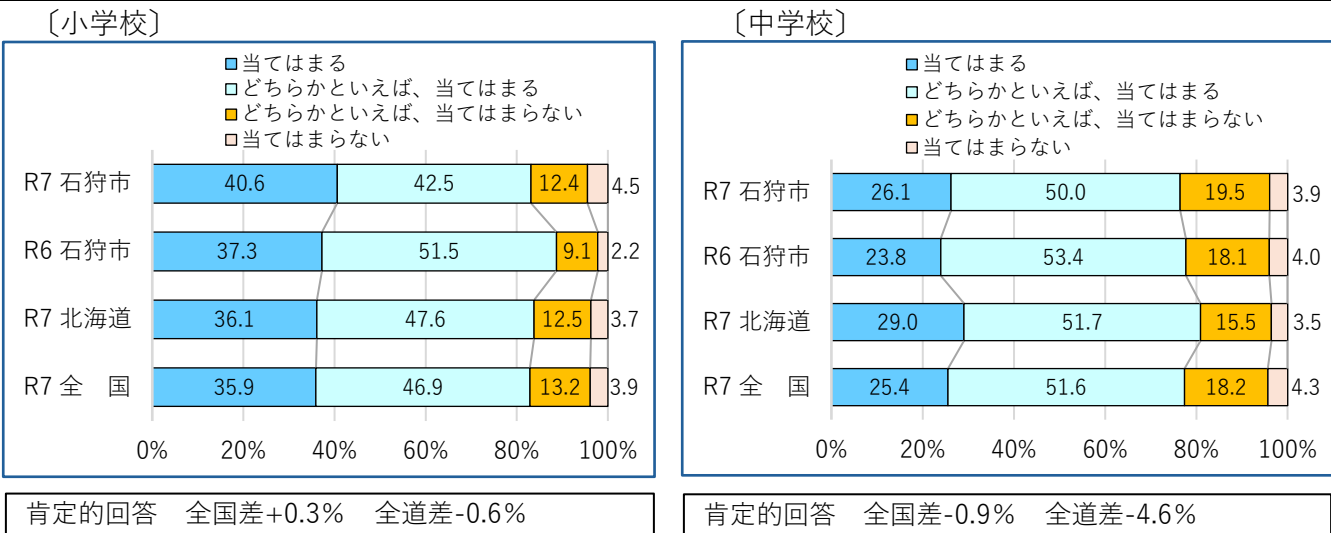
V

教科について

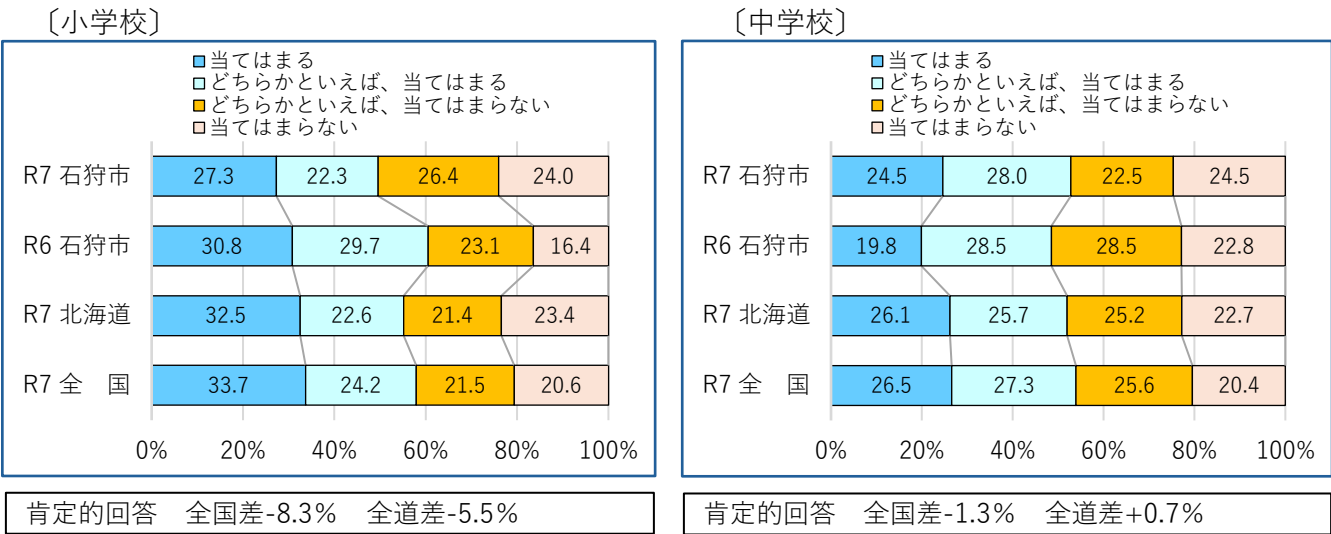
25 国語の勉強は好きですか



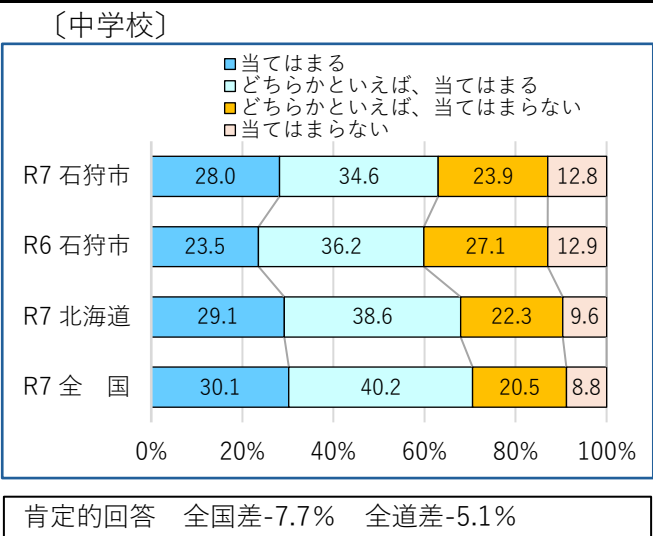
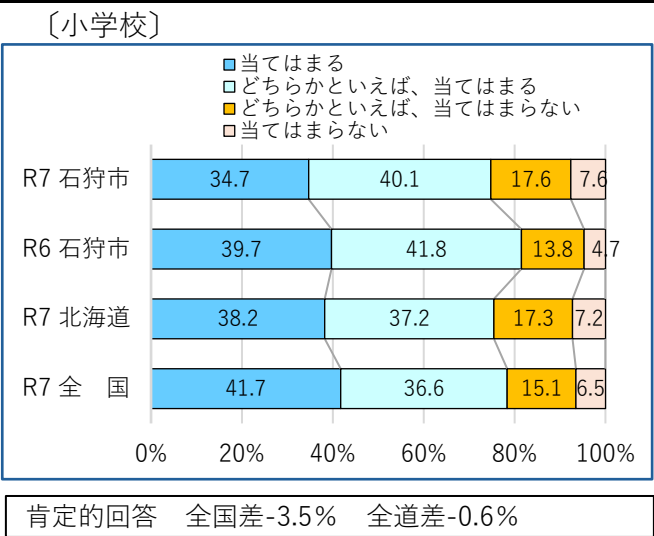
26 国語の授業の内容はよく分かりますか



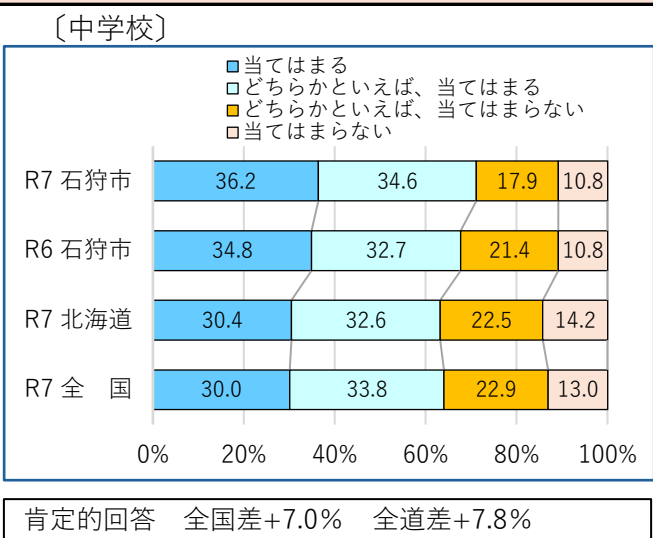
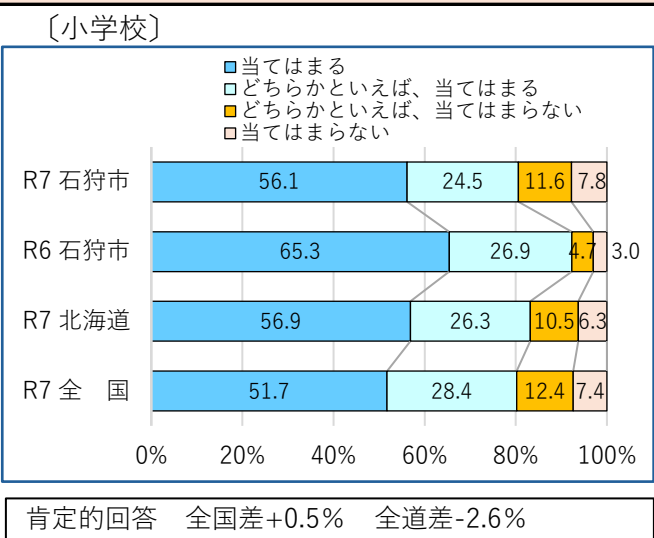
27 算数・数学の勉強は好きですか



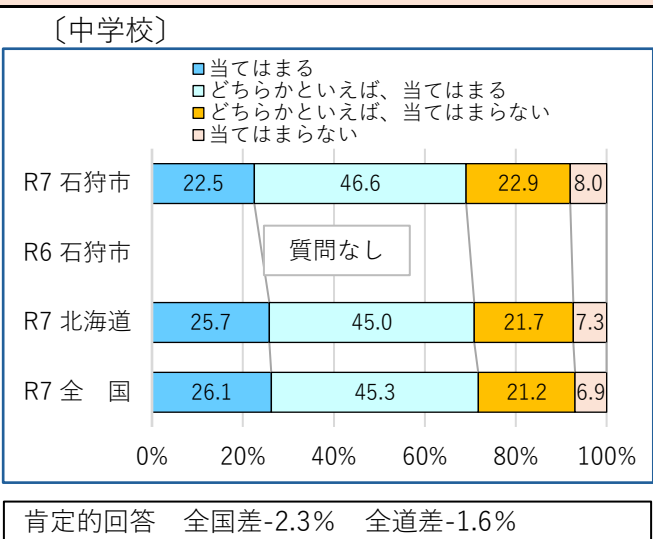
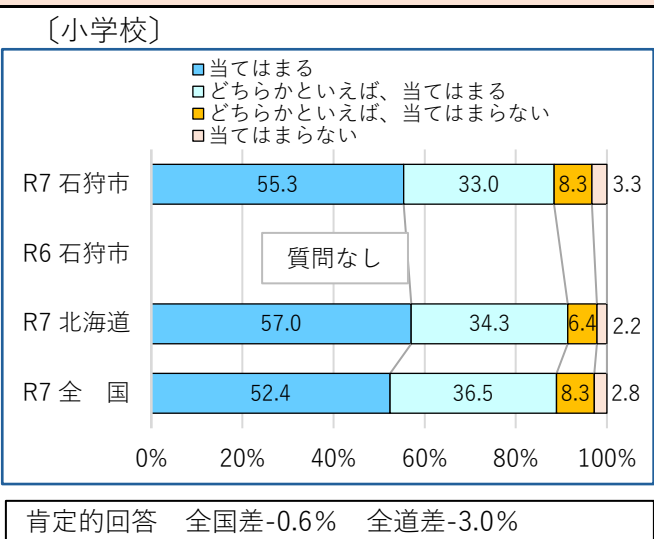
28 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか



29 理科の勉強は好きですか



30 理科の授業の授業の内容はよく分かりますか

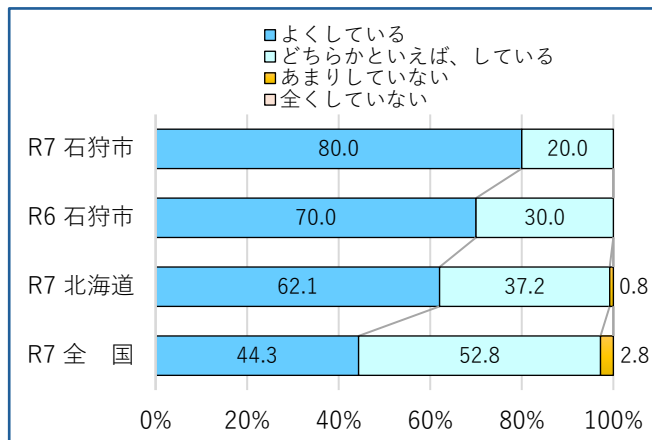


令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果分析 (学校質問調査) について

I 学校運営の取組について

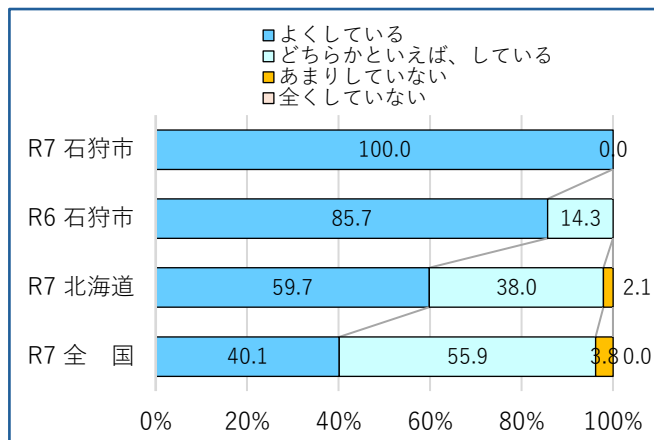
1 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

〔小学校〕



よくしている 全国差+35.7% 全道差+17.9%

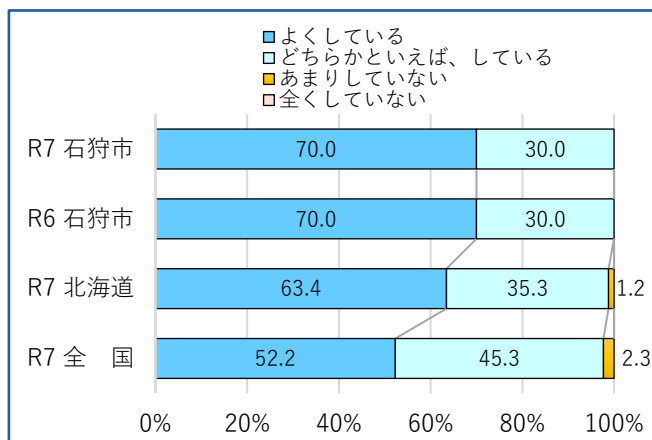
〔中学校〕



よくしている 全国差+59.9% 全道差+40.3%

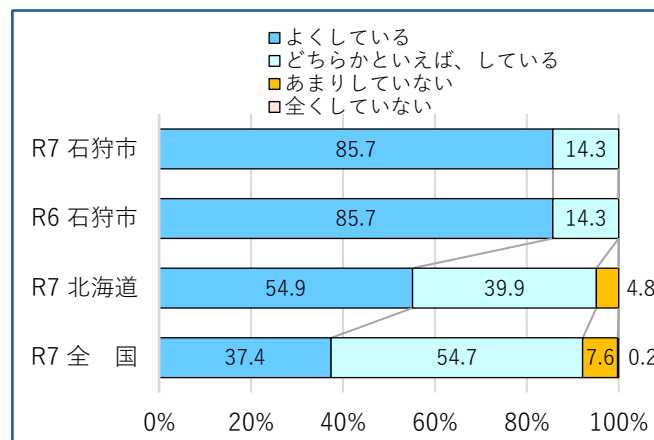
2 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか

〔小学校〕



よくしている 全国差+17.8% 全道差+6.6%

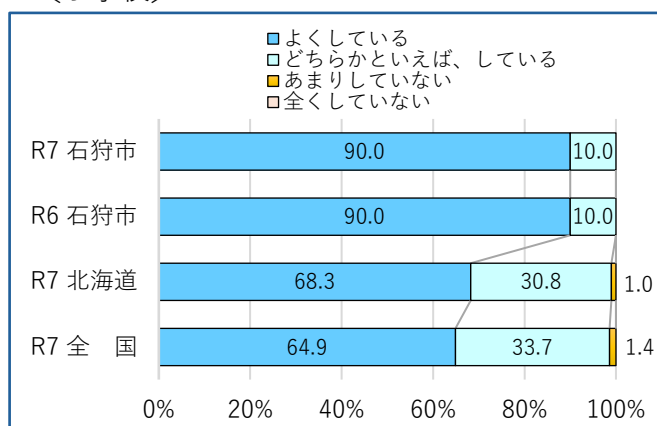
〔中学校〕



よくしている 全国差+48.3% 全道差+30.8%

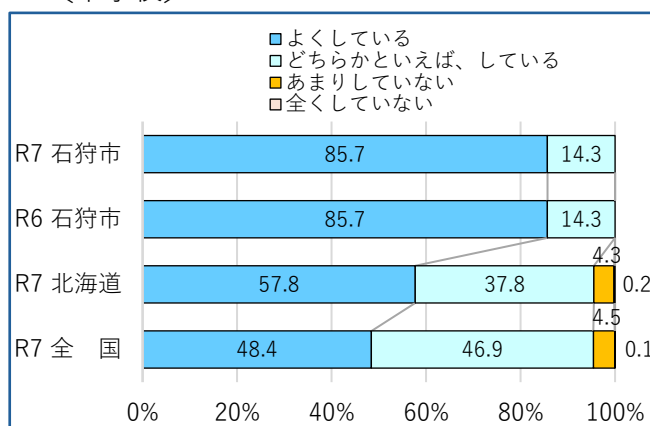
3 授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っている

〔小学校〕



よくしている 全国差+25.1% 全道差+21.7%

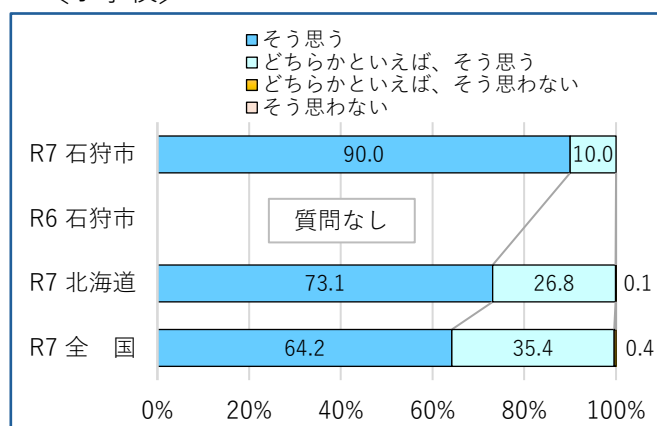
〔中学校〕



よくしている 全国差+37.3% 全道差+27.9%

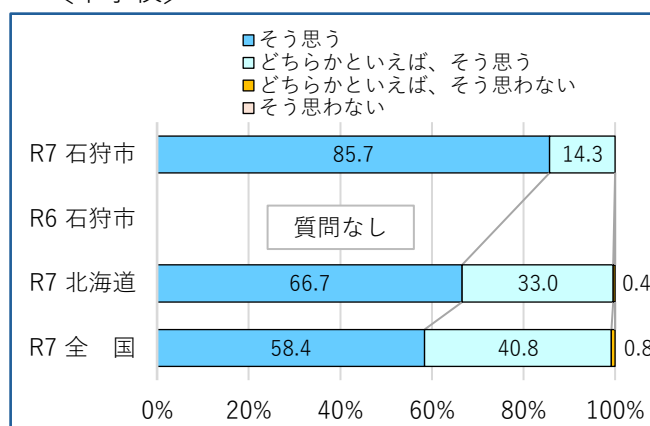
4 学校運営上の課題への対応に当たっては、各教職員（支援スタッフを含む。）の専門性を活かせるよう適切な役割分担や連携協働をしている

〔小学校〕



そう思う 全国差+25.8% 全道差+16.9%

〔中学校〕



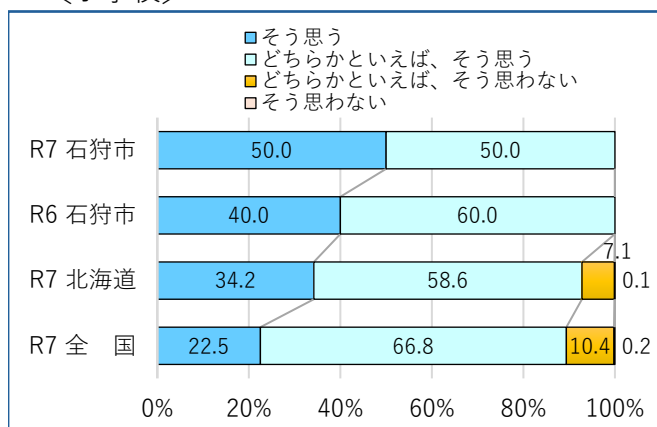
そう思う 全国差+27.3% 全道差+19.0%

II

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の取組について

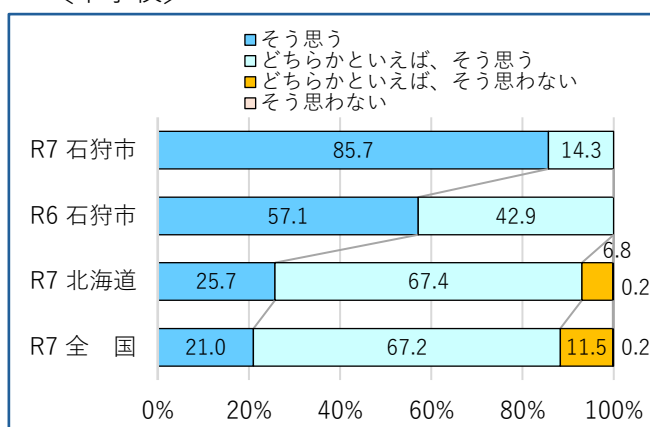
5 調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

〔小学校〕



そう思う 全国差+27.5% 全道差+15.8%

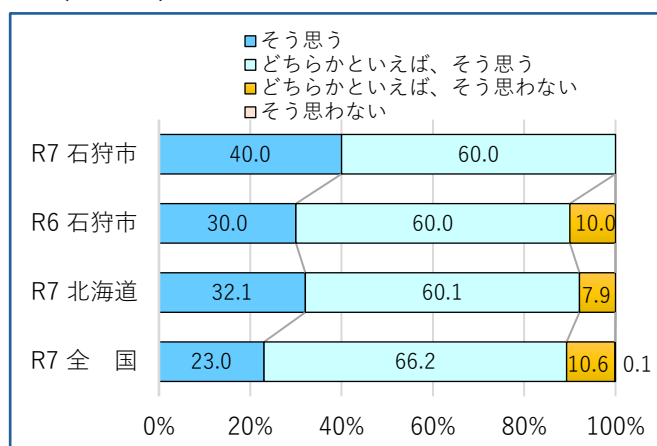
〔中学校〕



そう思う 全国差+64.7% 全道差+60.0%

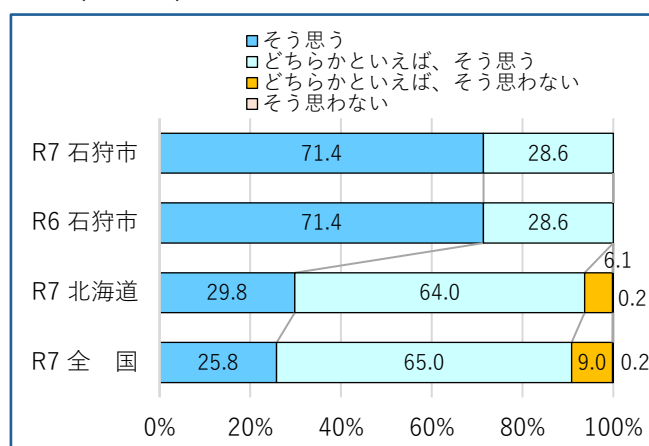
6 調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

〔小学校〕



そう思う 全国差+17.0% 全道差+7.9%

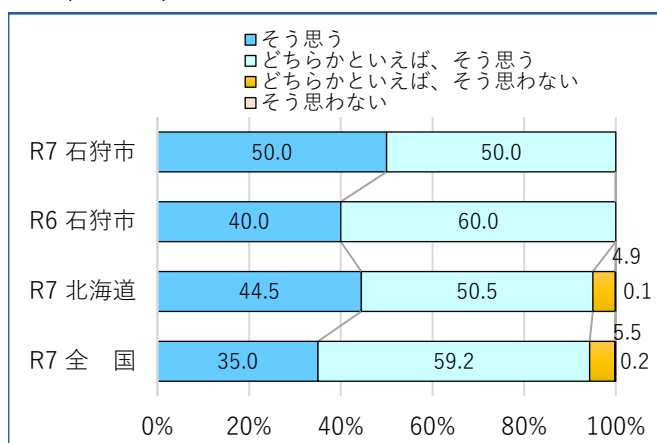
〔中学校〕



そう思う 全国差+45.6% 全道差+41.6%

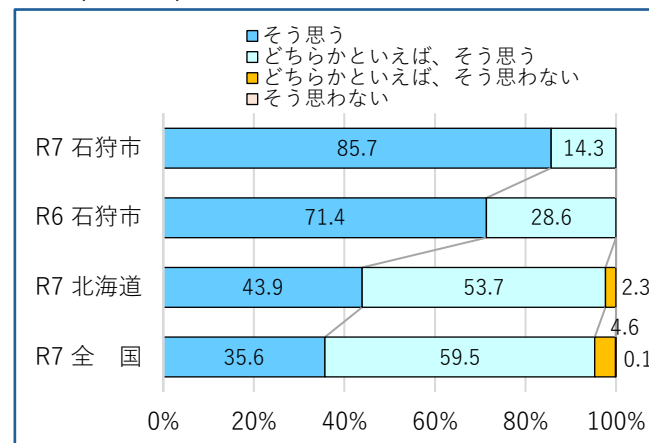
7 調査対象学年の児童生徒は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか

〔小学校〕



そう思う 全国差+15.0% 全道差+5.5%

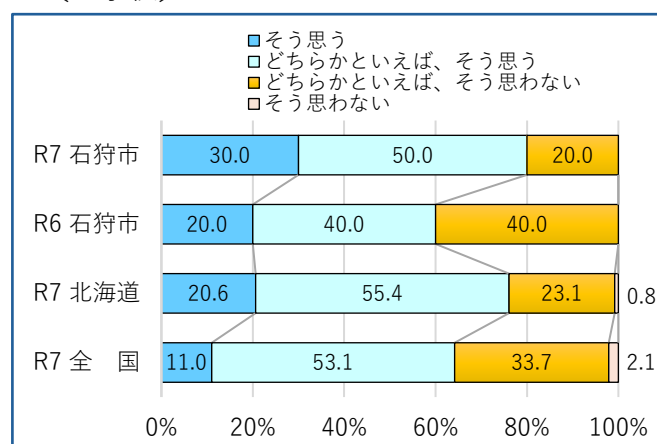
〔中学校〕



そう思う 全国差+50.1% 全道差+41.8%

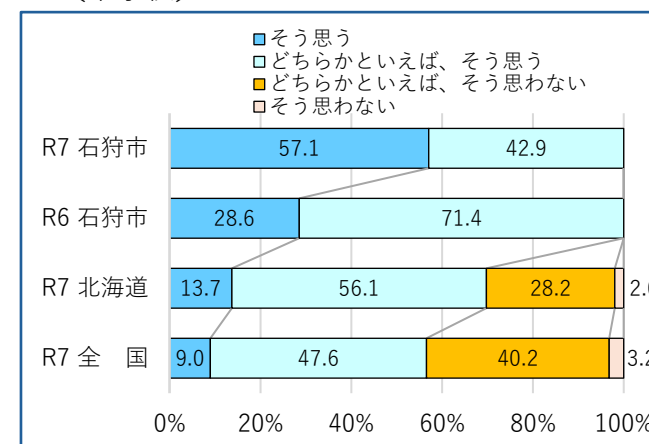
8 調査対象学年の児童生徒は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか

〔小学校〕



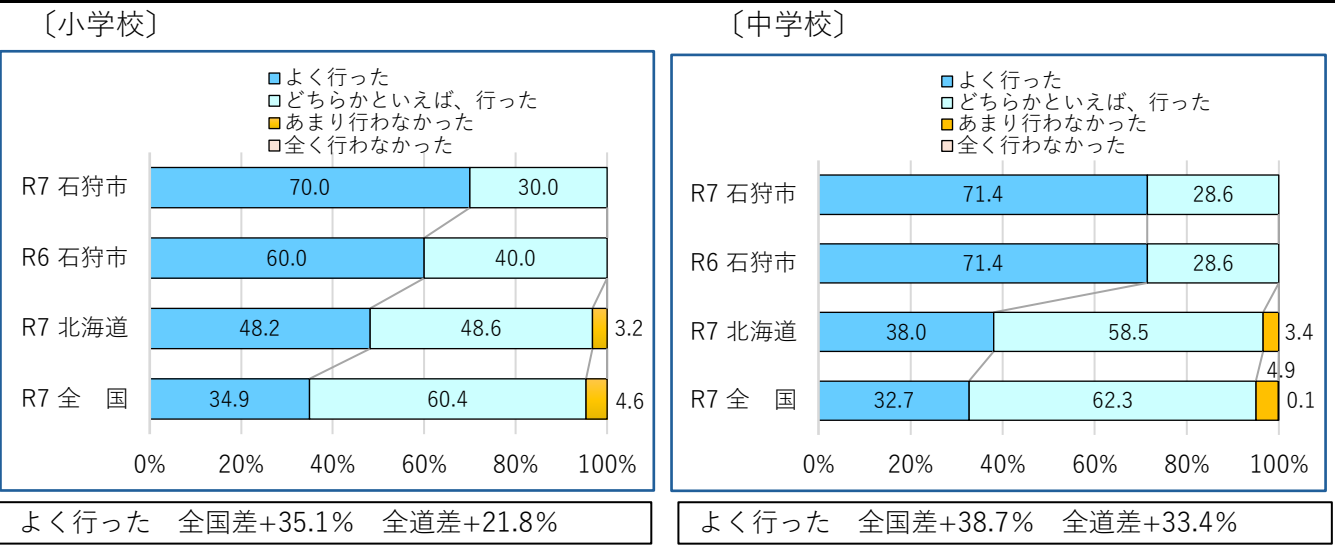
そう思う 全国差+19.0% 全道差+9.4%

〔中学校〕

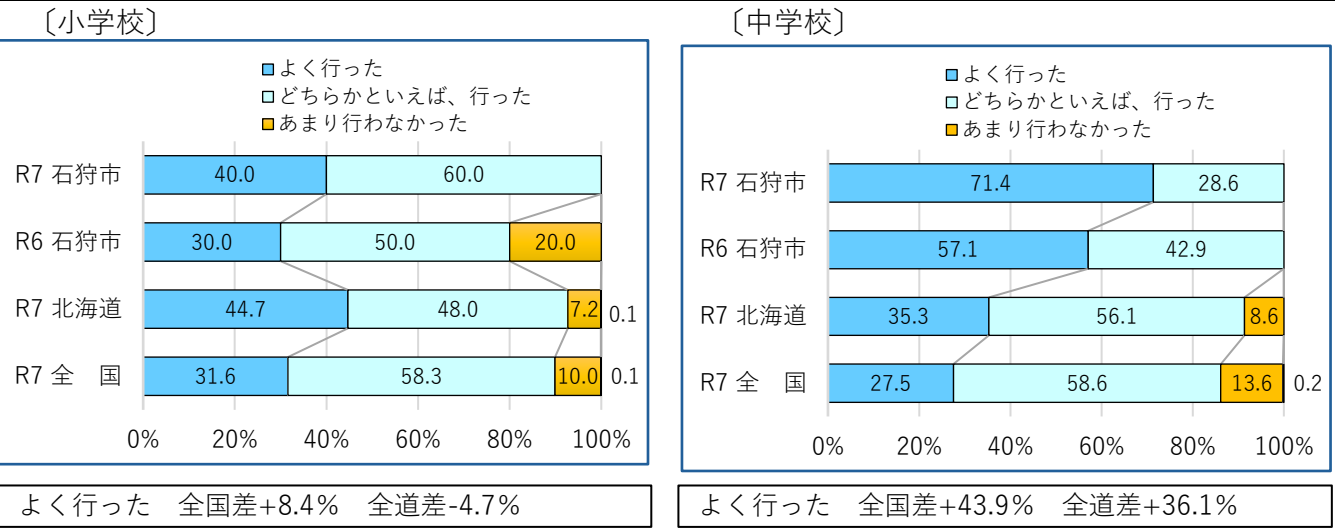


そう思う 全国差+48.1% 全道差+43.4%

9 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習指導において、児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか



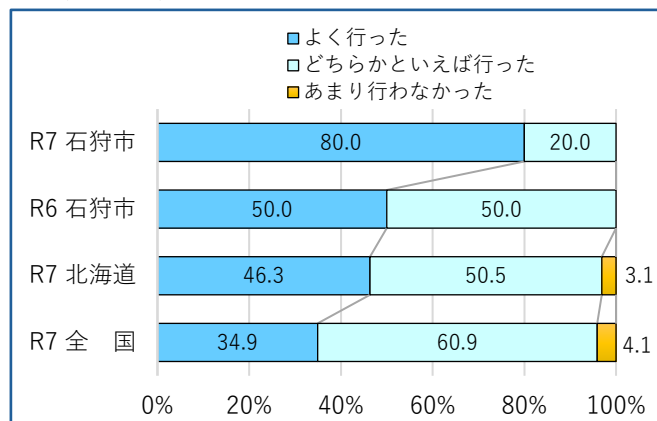
10 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか



Ⅲ 教科の指導方法について

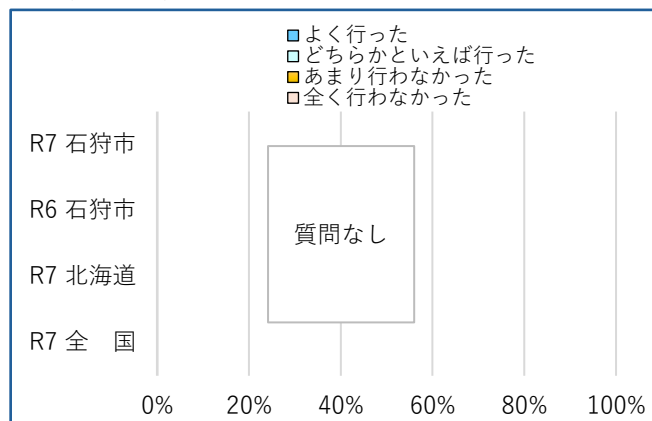
11 【小学校】 調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行いましたか

〔小学校〕



よく行った 全国差+45.1% 全道差+33.7%

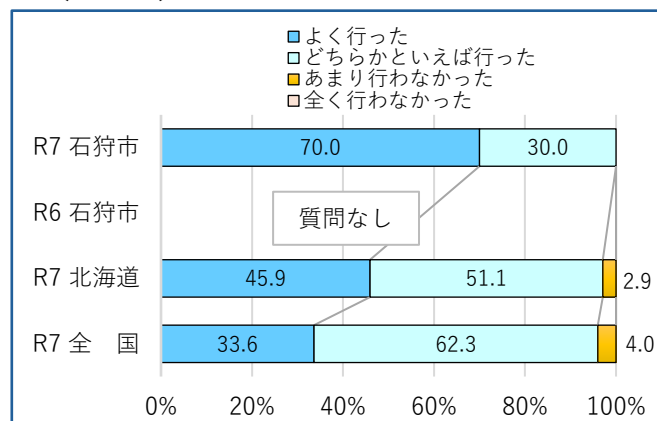
〔中学校〕



質問なし

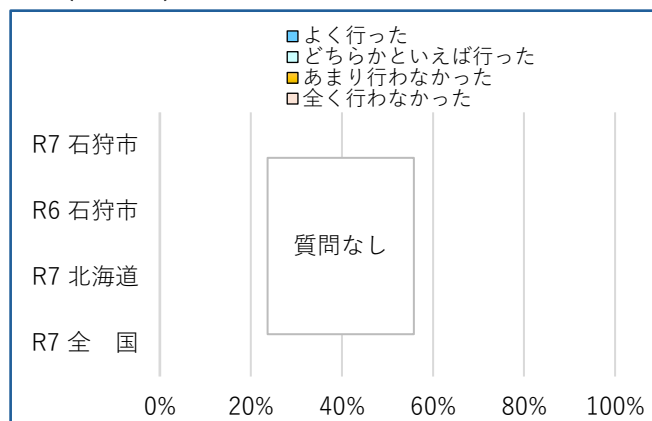
12 【小学校】 調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるような指導を行いましたか

〔小学校〕



よく行った 全国差+36.4% 全道差+24.1%

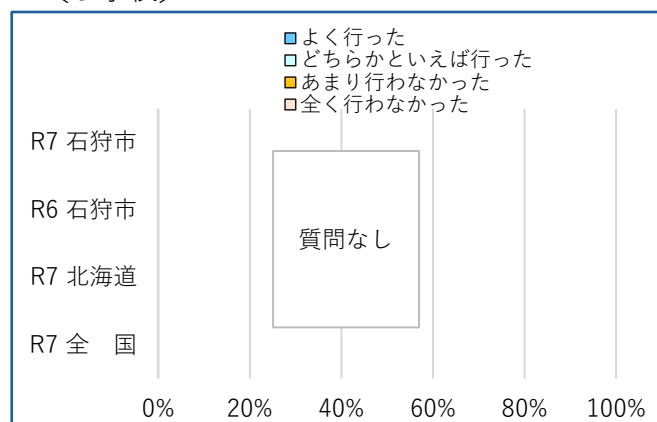
〔中学校〕



質問なし

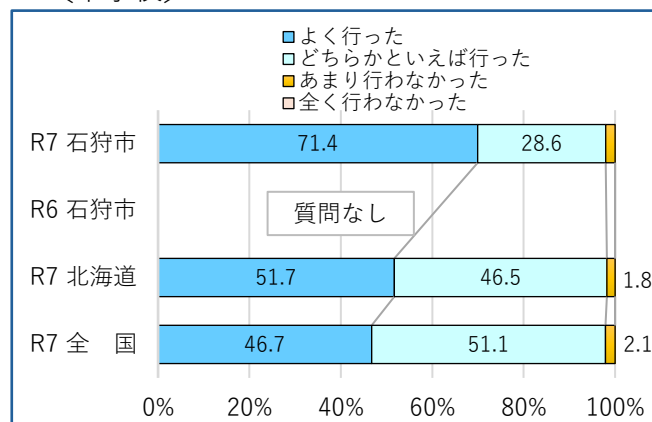
13 【中学校】 調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるような指導を行いましたか

〔小学校〕



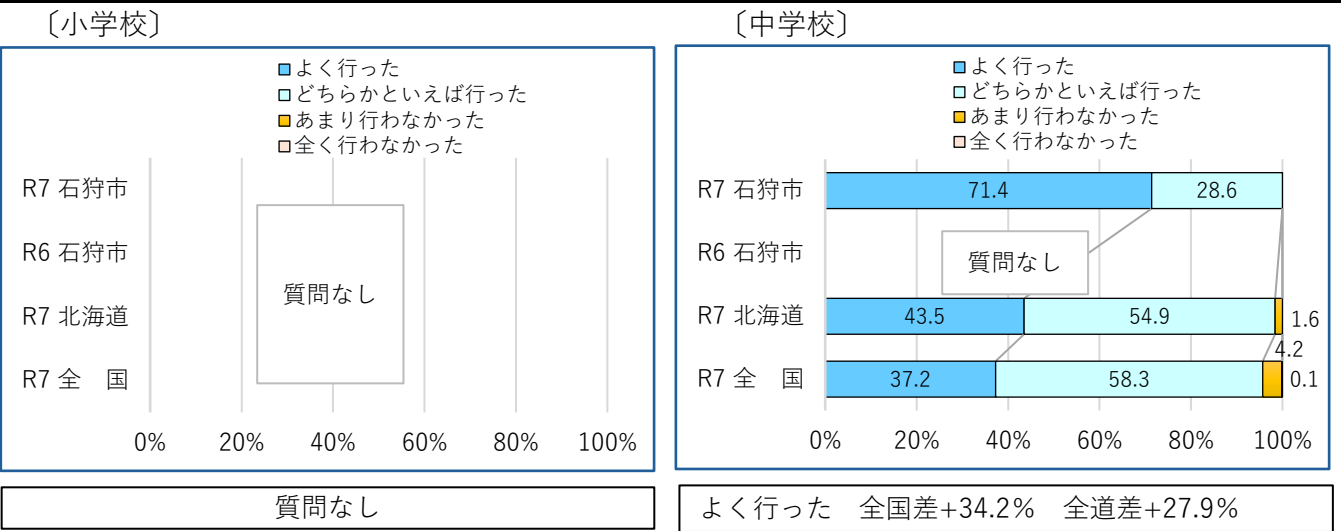
質問なし

〔中学校〕

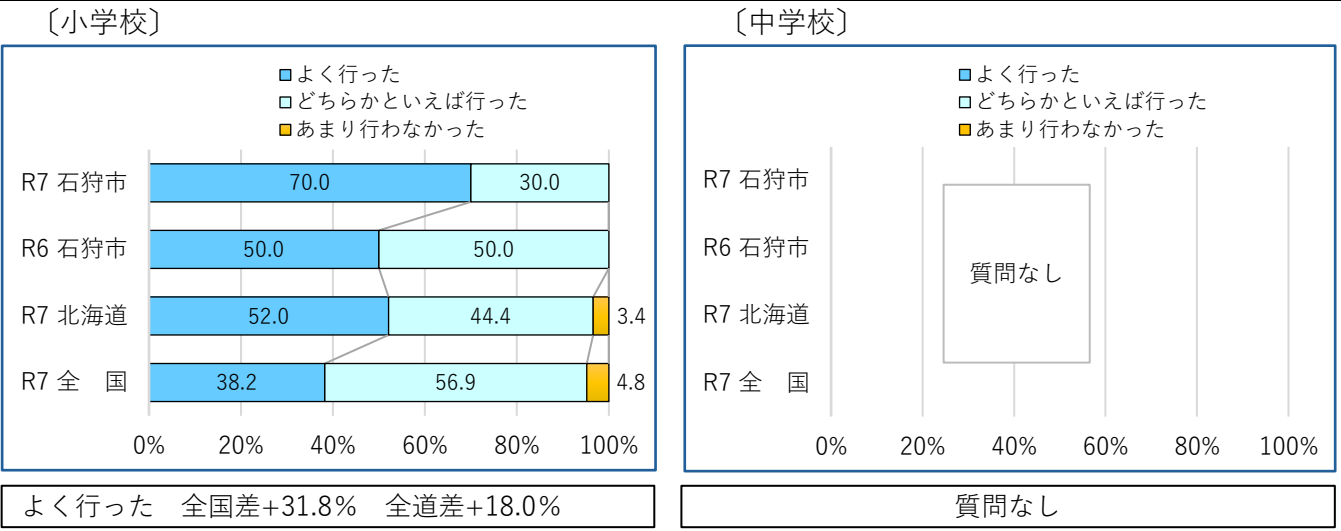


よく行った 全国差+24.7% 全道差+19.7%

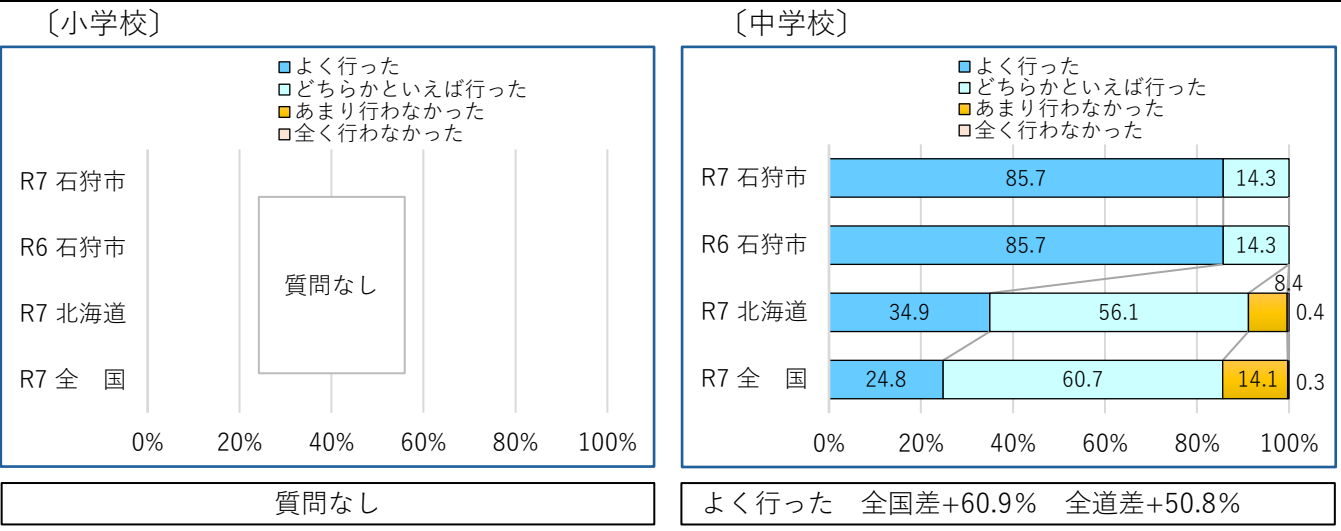
14 【中学校】 調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるような指導を行いましたか



15 【小学校】 調査対象学年の児童生徒に対する算数の授業において、前年度までに、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行いましたか

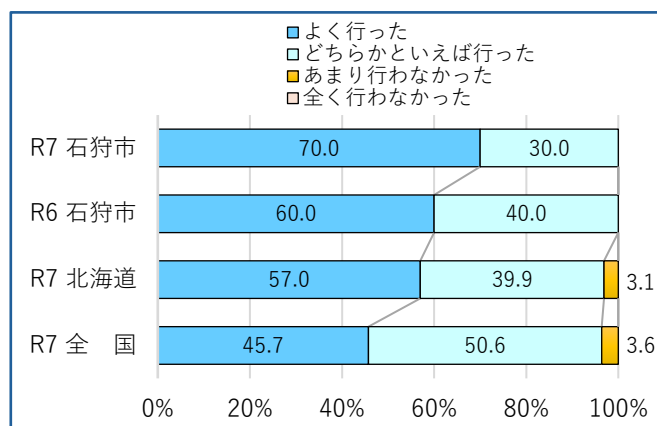


16 【中学校】 調査対象学年の生徒に対する数学の授業において、前年度までに、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行いましたか



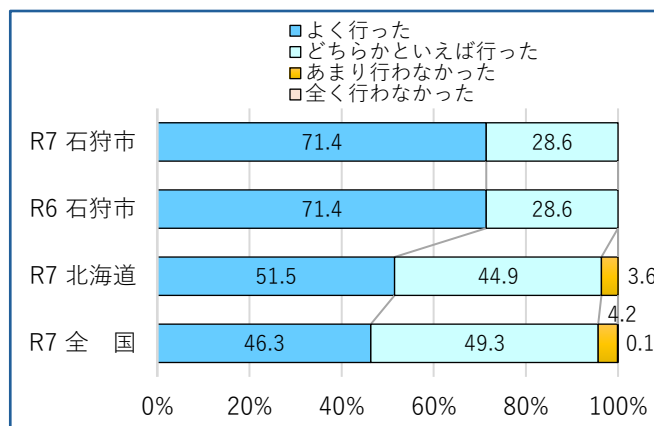
17 調査対象学年の児童生徒に対する算数・数学の授業において、前年度までに、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童生徒に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか

〔小学校〕



よく行った 全国差+24.3% 全道差+13.0%

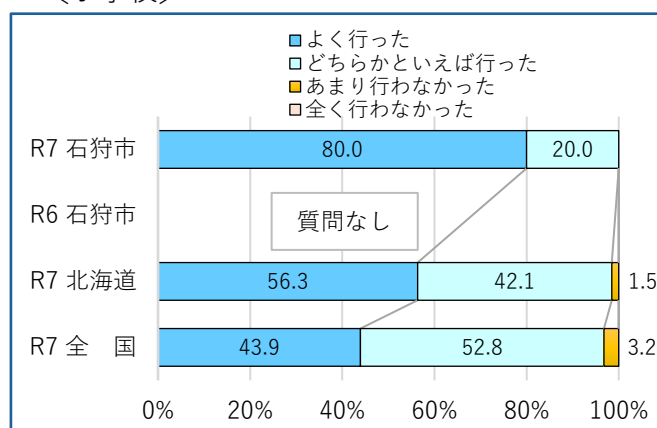
〔中学校〕



よく行った 全国差+25.1% 全道差+19.9%

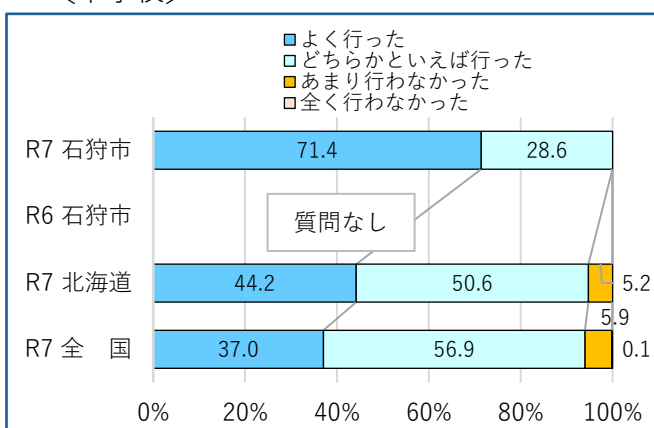
18 調査対象学年の児童生徒に対する理科の授業において、前年度までに、問題に対して、既習の内容や生活経験を基に、予想や仮説を発想することができるような指導を行いましたか

〔小学校〕



よく行った 全国差+36.1% 全道差+23.7%

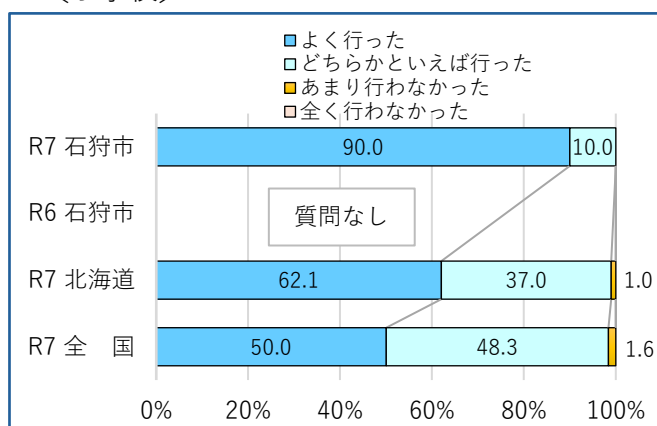
〔中学校〕



よく行った 全国差+34.4% 全道差+27.2%

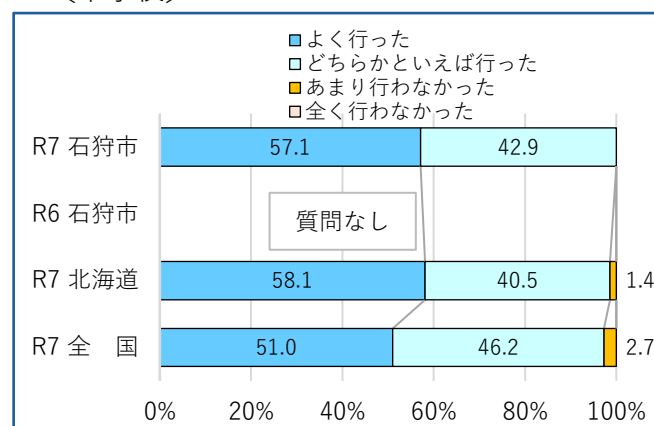
19 調査対象学年の児童生徒に対する理科の授業において、前年度までに、観察や実験の結果を小学校は整理し考察する指導、中学校は分析し解釈する指導を行いましたか

〔小学校〕



よく行った 全国差+40.0% 全道差+27.9%

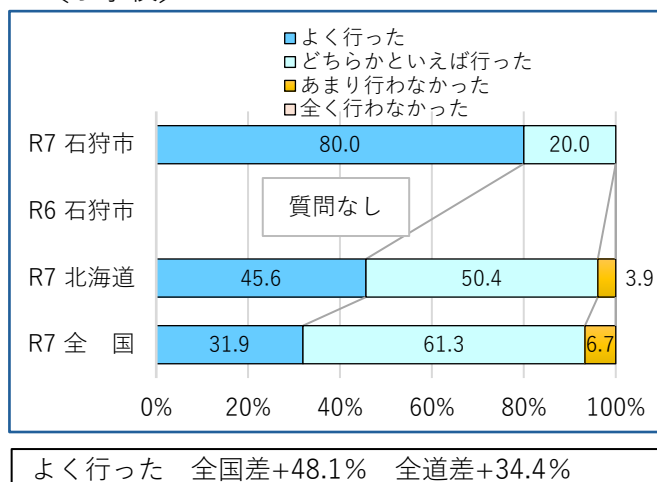
〔中学校〕



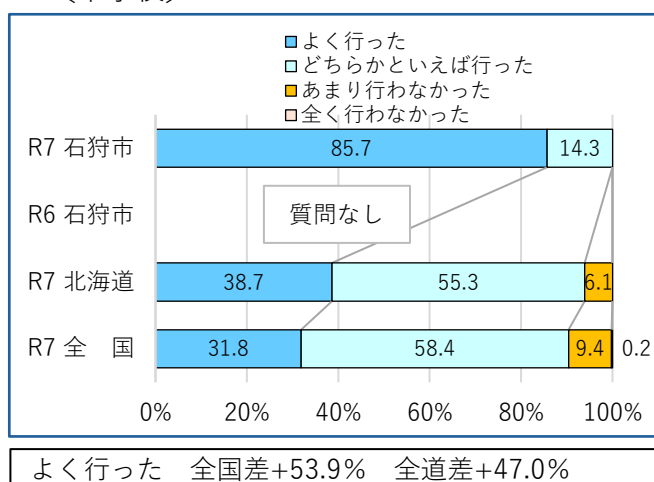
よく行った 全国差+6.1% 全道差-1.0%

20 調査対象学年の児童生徒に対する理科の授業において、前年度までに、課題解決の過程における自分や友だちの学びの深まりや疑問に思ったことを振り返ることができるような指導を行いましたか

〔小学校〕



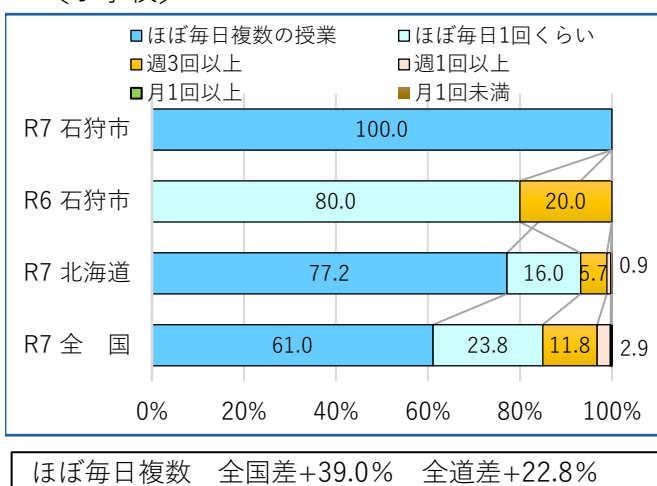
〔中学校〕



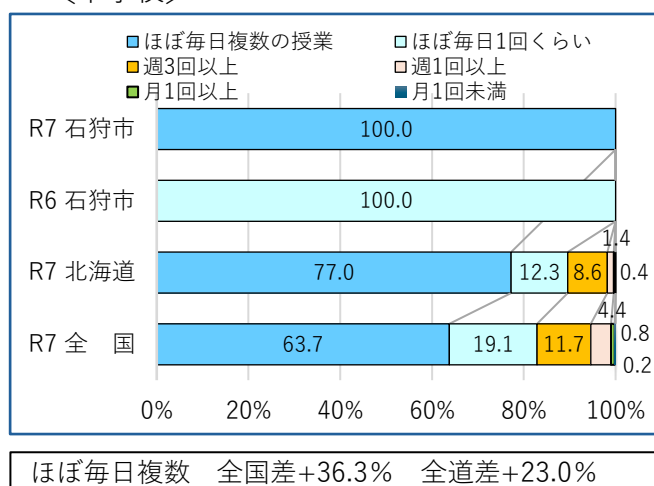
IV ICTを活用した学習状況について

21 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか ※R6の選択は「ほぼ毎日」で、「複数の授業・1回くらいの活用」と区別がない。

〔小学校〕

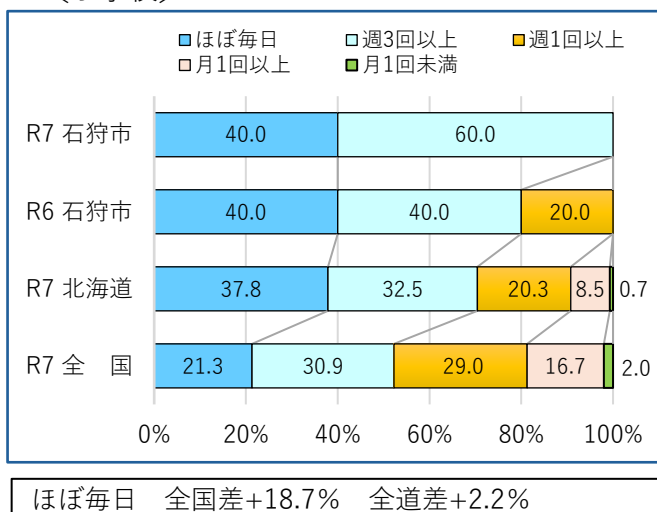


〔中学校〕

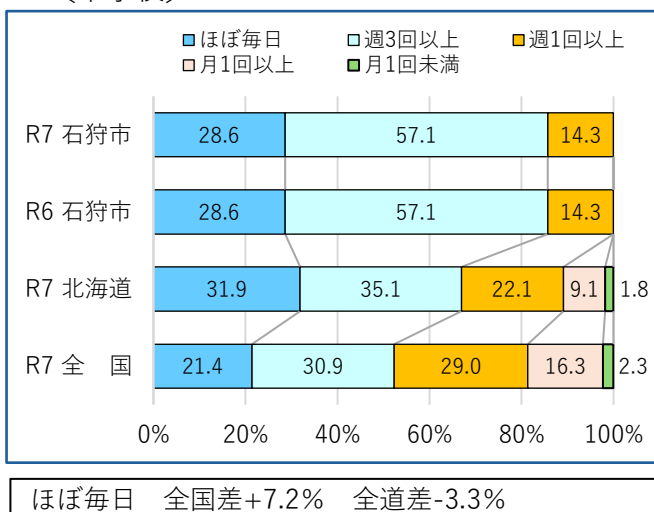


22 調査対象学年の児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

〔小学校〕

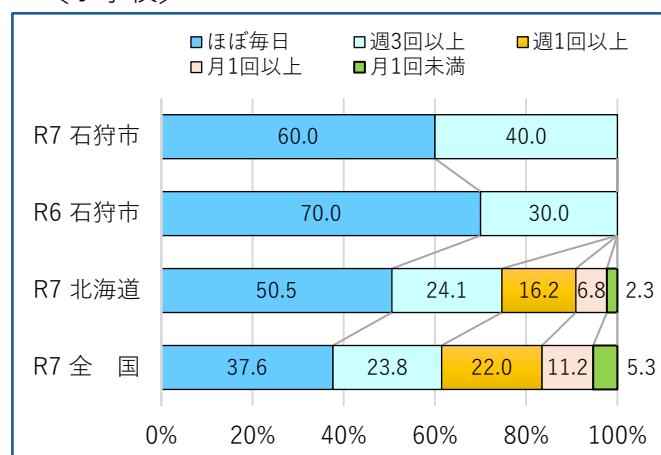


〔中学校〕



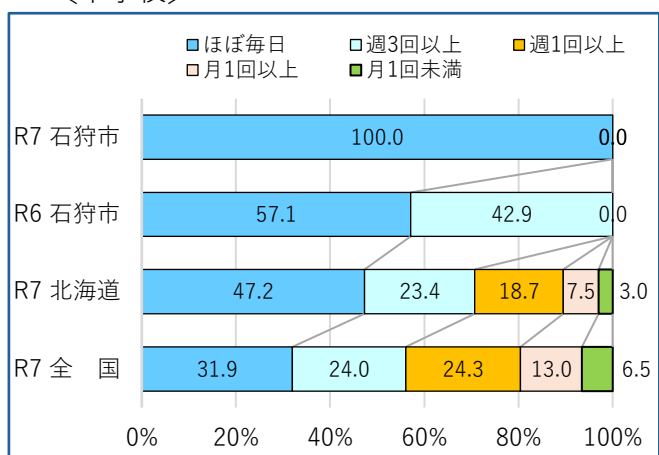
23 教職員と調査対象学年の児童生徒がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

〔小学校〕



ほぼ毎日 全国差+22.4% 全道差+9.5%

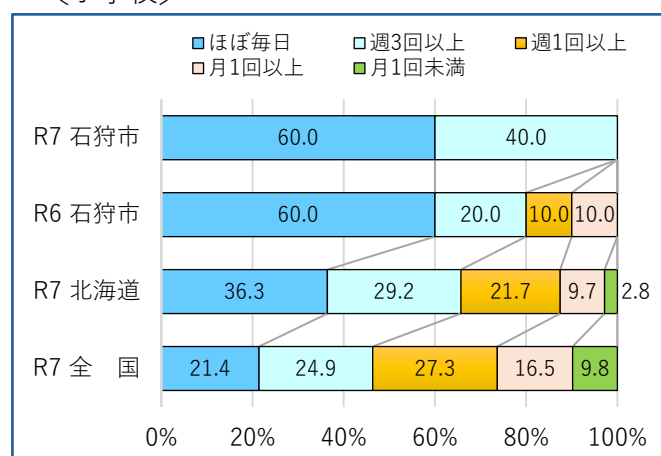
〔中学校〕



ほぼ毎日 全国差+68.1% 全道差+52.8%

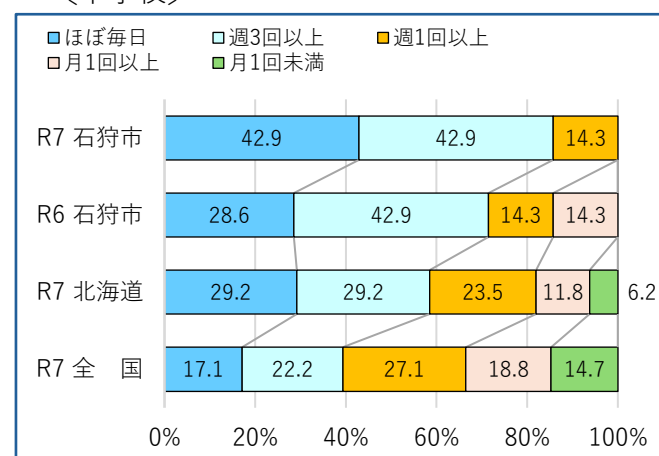
24 調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

〔小学校〕



ほぼ毎日 全国差+38.6% 全道差+23.7%

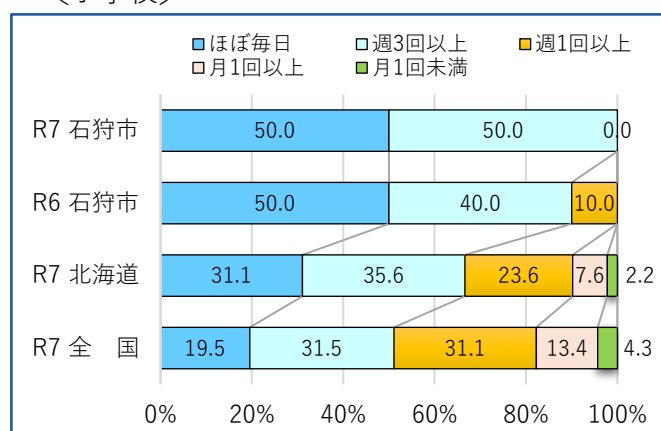
〔中学校〕



ほぼ毎日 全国差+25.8% 全道差+13.7%

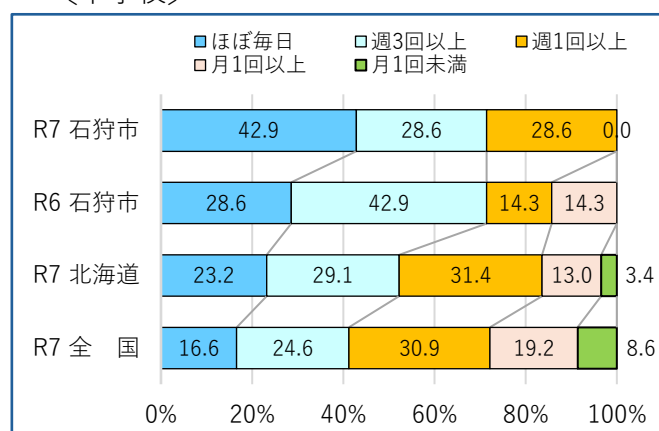
25 調査対象学年の児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

〔小学校〕



ほぼ毎日 全国差+30.5% 全道差+18.9%

〔中学校〕



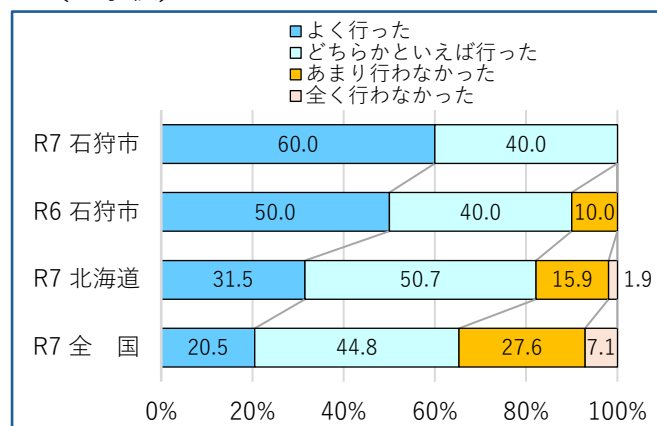
ほぼ毎日 全国差+26.3% 全道差+19.7%

V

小中連携、家庭・地域との連携について

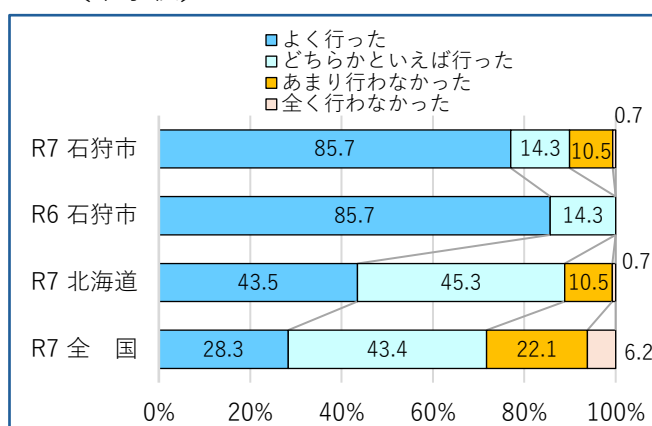
26 前年度までに、近隣等の小・中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか

〔小学校〕



よく行った 全国差+39.5% 全道差+28.5%

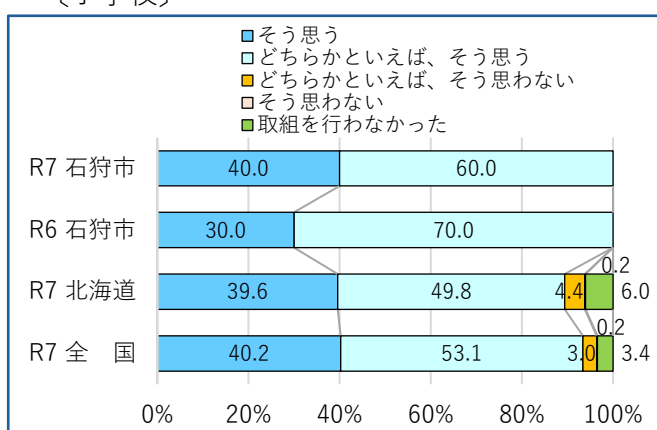
〔中学校〕



よく行った 全国差+57.4% 全道差+42.2%

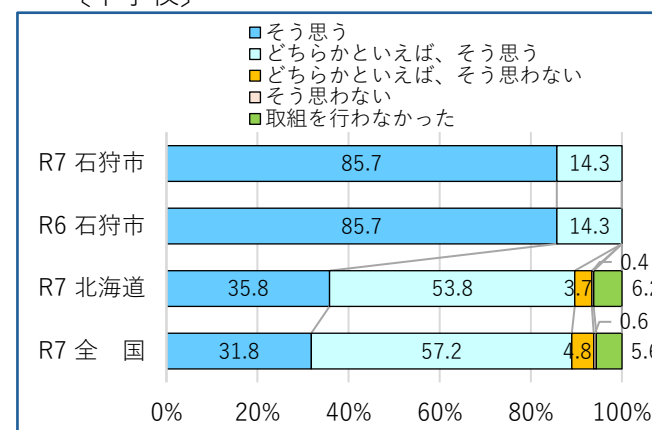
27 コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか

〔小学校〕



そう思う 全国差-0.2% 全道差+0.4%

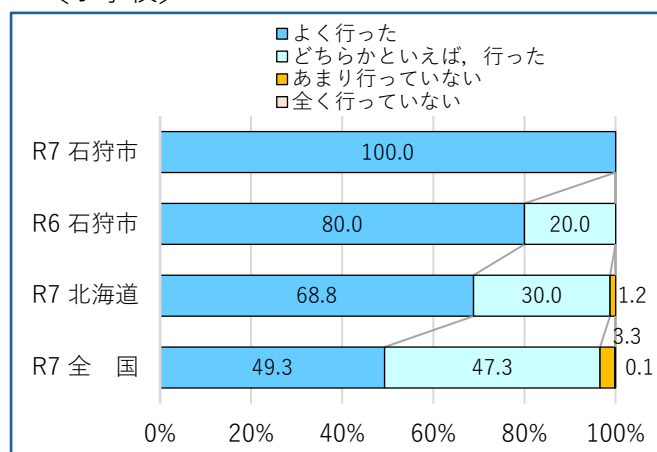
〔中学校〕



そう思う 全国差+53.9% 全道差+49.9%

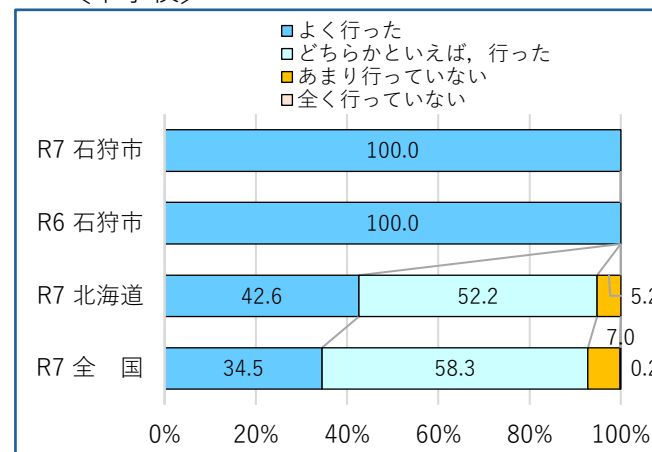
28 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか

〔小学校〕



よく行った 全国差+50.7% 全道差+31.2%

〔中学校〕



よく行った 全国差+65.5% 全道差+57.4%

29 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習について、児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか

